

二世帯同居型住宅の家族 20年の軌跡

ヘーベルハウス二世帯住宅入居者調査より

旭化成株式会社
二世帯住宅研究所

はじめに

目次

1. コンテンツ(本文の基本構成)

第一章 : 20年間二世帯同居の変化 6

ヒューマン: 家族構成の変化／ライフスタイルの変化

- Q38. 年齢(初→現)
- F4. 親子関係(当初→現在／二世帯解消)
- Q36. 家族の変化
- Q37. 家族人数(当初20年前→現在)
- Q18. 親の同居経験(親の親との)

ハード: ハードの変化&リフォーム(場所、理由)／共有部分のリフォームも

- Q20. 当初(20年前)の分離
- Q22. 20年の増改築含むリフォーム
- Q23. リフォームのきっかけ、理由
- Q24. 玄関・浴室・キッチン 当初と変化
- Q25. 玄関・浴室・キッチンの分離意向
- F7. 土地面積、建坪
- Q26. 内部で行き来できない不便
- SQ OA
- Q27. ハードの将来構想

ソフト: 相続、介護、子供の成長による課題の発生

- Q17. 子供の結婚
- SQ 子供の同居
- Q19. 介護経験
- SQ OA
- Q28. 賃貸経験
- Q29.

第二章 : 20年間二世帯生活の方法論 22

暮らし方、交流などのルールなど

- Q4. スタート時以前の親同居
- Q5. 同居を始めた理由、きっかけ
- Q11. 二世帯のつきあい方意識
- Q12. 生活の交流
- Q13. 両世帯が集まる場所(当初)/(現在)
- Q14. 二世帯同居生活のルール

第三章 : 20年間二世帯同居への喜び・反省(満足・不満) 29

[振り返ればよい思い出?]

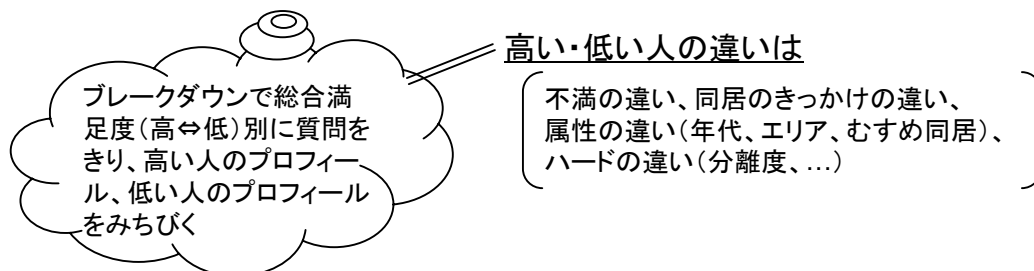
20年間を振り返ってよかった／よくなかったことの (その程度、種類は)

- Q1~Q3. ハードの満足
- Q6. 二世帯同居生活の満足
- Q7. 二世帯同居のよい点(20年前当初)
- Q8. 二世帯同居のよい点(現在)
- SQ. OA
- Q9. 不満点(当初)
- Q10. 不満点(現在)
- SQ. OA
- Q15. 二世帯間の交流の満足度
- Q16. 子供にとってよいこと
- Q21. ハード分離の満足度

目次

第四章 : 20年間二世帯生活へのサクセスケース(上手な人) ／フェイルアケース(失敗した人) 41

(どんなタイプの人が二世帯住居生活に向いているのか)



第五章 : 二世帯同居生活のコツ(先人の教え) 46

(“人間(じんかん)、ハード、負担、時間多く”の4つの視点から)

Q34. ルールの取決め

Q35. 不満の解消／話し合い

第六章 : 二世帯同居生活への本音(本当は／理想は) 52

(理想の親子の住まい方とは／近・別居、どう住むのがよいのか要素)

||

〔近居、独立2棟の裏側にあるその心とは〕

Q30. 今後の住まい方

Q31. 新しい住宅に住むとしたら

SQ. OA 何故マンション、戸建がよいか

Q32. 20年前に戻ってやれるとしたら二世帯?

Q33. 同居可能な子供

SQ1. 子供との同居意向

SQ2. 子供との住まい方(ハード)は?

調査概要

1. 調査対象

旭化成ヘーベルハウスでの二世帯同居経験がある世帯を対象とし、二世帯住宅居住約20年目(1979年～1982年入居者)家族の【入居当初の子世帯妻】【入居当初の親世帯妻】を対象とした。
(※但し、各々世帯の妻が記入できない場合は該当世帯の【夫】に記入をお願いしている。)

2. 調査方法

郵送法

対象世帯に調査依頼と調査票、謝礼を同封し、留置自記入で回答していただいた。
またアンケート発送約1週間後に督促ハガキを発送。

3. 有効発送数と有効回収サンプル数

有効発送数：【入居当初の子世帯妻】、【入居当初の親世帯妻】 各749サンプルずつ
(転居先不明12サンプルを除く)

有効回収サンプル数

：【入居当初の子世帯妻】 N=307(回収率41%)
【入居当初の親世帯妻】 N=212(28%)

※回収サンプル数には【夫】の記入も含む。

※対象外世帯(二世帯経験なし)や該当世帯が死亡・転居等で記入者がいない場合はアンケートの廃棄をお願いし回収の対象外とした。

4. 調査期間

2002年7月9日(発送)～7月23日(対象者投函〆切)

8月1日までに回収されたサンプルを全て対象とした。

5. 調査実施機関

(株)マーケティングディレクションズ

千代田区九段北1-5-10 九段有楽ビル2F 03-3230-0431

6. 対象世帯プロフィール(属性等は本文／子世帯307世帯)

全体	(子)新築入居年						
	昭和54年	昭和55年	昭和56年	昭和57年	昭和58年	昭和59年	不明
307	6.8	20.5	33.2	35.2	3.9	0.3	0.0

全体	F1-2.同居されたのは		
	新築入居した年とほぼ同じ	新築入居と同居の年は違う	不明
307	79.8	15.6	4.3

全体	F5.現在／二終一建物回数				
	1階建て	2階建て	3階建て	その他	不明
307	0.0	97.4	2.0	0.3	0.3

全体	F6.現在／二終一外階段は					不明
	子世帯用の外階段が新築時	子世帯用の外階段を同居	親世帯用の外階段が新築時	親世帯用の外階段を同居の	外階段はつけていない	
307	12.7	0.7	1.3	0.0	83.4	2.0

調査結果の概要



第一章

20年間の二世帯同居家族の変化

- 20年という年月は二世帯同居の家族にとってもひとそれぞれにとっても大きな変化をもたらします。
- 家族の「かたち」も含めた“ヒューマン”の変化はもちろん、家族の行動の決める“ソフト”、うつわとしての“ハード”とさまざまな変化が家族にもちあがります。

- ①ヒューマン：家族構成の変化／ライフスタイルの変化、家族におこる事件、トピックス
- ②ハード：建物・設備・機能の変化とリフォーム（場所・理由）／共用部分
- ③ソフト：相続、介護、子供の成長による問題の発生

二世帯同居の家族の20年間におこる変化について、まず第一章でまとめてみます。

①二世帯同居家族のプロファイルと20年の変遷(ヒューマン)

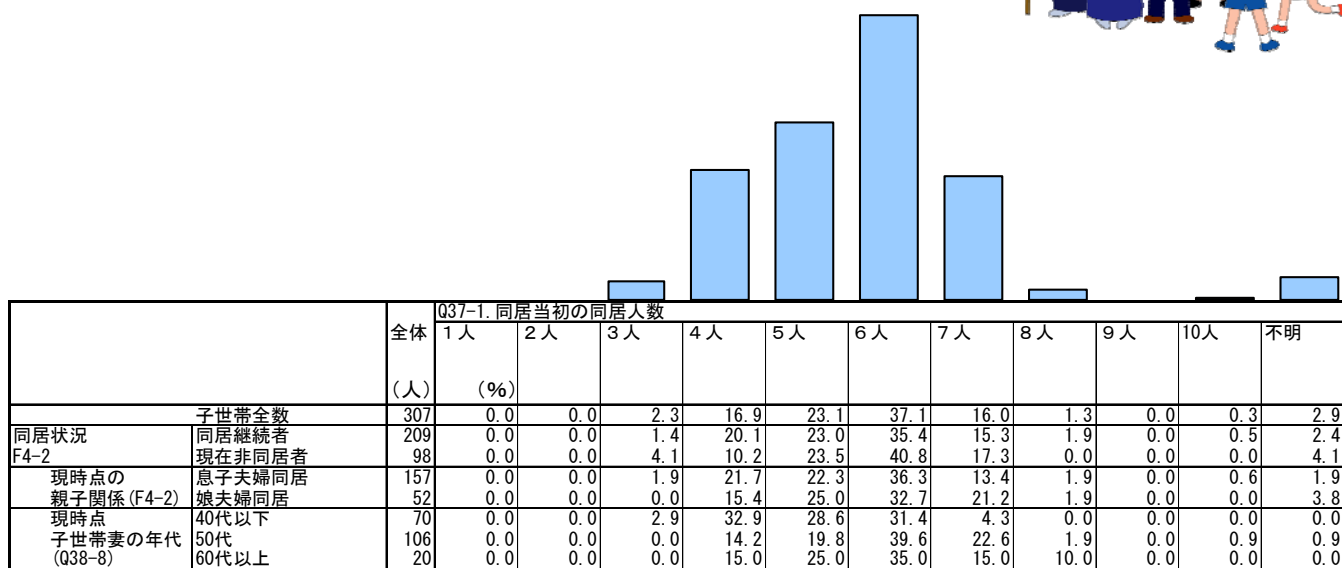
1. 家族人数

二世帯新築時「6人家族」が多い世帯も現在は平均4.3人になっている。

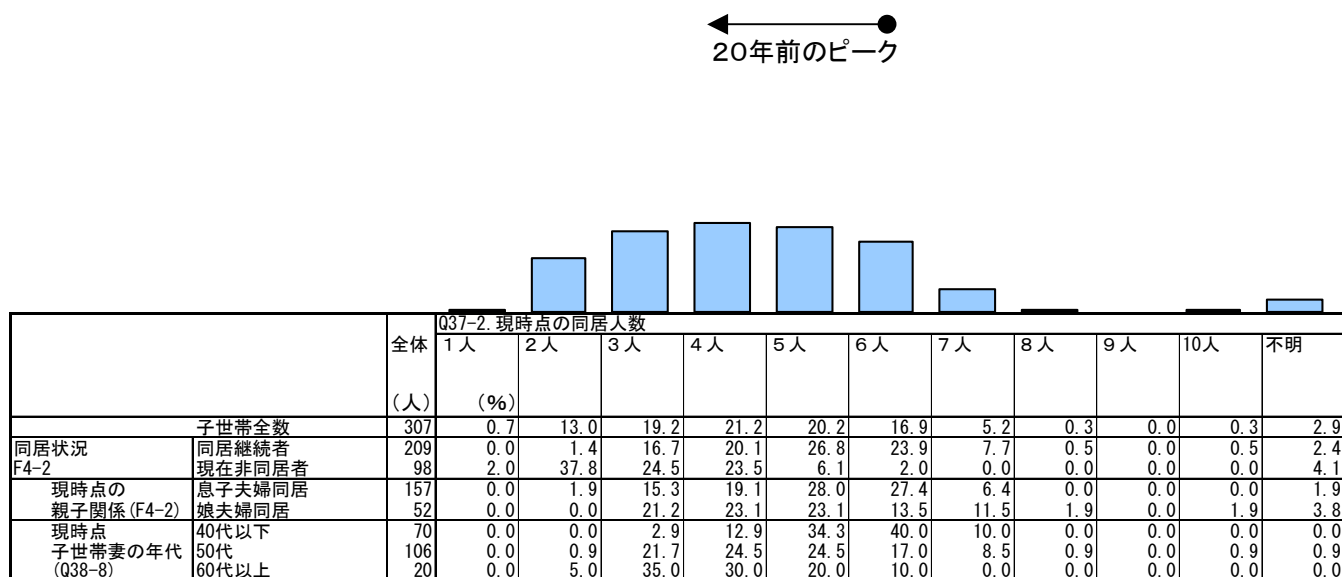
- 20年前6人以上で出発している家族は55%を占めている。20年後の現在、「6人以上家族」は23%に過ぎない。家族の誕生もあるが、悲しい別れを経験している。
- 20年前子世帯が40才台で家族の最盛期だった家族も、もう60代。現在60代以上の家族で「6人以上家族」は10%と、同居を続けていても少なくなっている。



20年前新築時の家族人数



現在の家族人数



①二世帯同居家族のプロファイルと20年の変遷(ヒューマン)

2. 家族の年齢



単純に言えば、子世帯も親世帯も20才歳をとります。

これは当然わかっていることですが、現実感をもって当初からの予測がユーザーにはできない様です。

- 二世帯新築時、親世帯(父67才、母62才)は平均で60代。まだまだ仕事も現役の人もあり、リタイヤしても家庭人ではバリバリの現役であった。20年で80才代に。悲しい別れ(死亡)もあります。
- 子世帯(夫37才、妻34才)は平均で30代、20年で夫は50才代後半。公私共に現役であるが、そろそろ社会人としてのゴールを考え始め、身体も無理がきかないと思う年代に。

同居当初の同居ご家族構成

親世帯様(あなた様または配偶者様)		【同居率は】【平均年齢は】	
		(%)	
お父様	→	82	66.6 才
お母様	→	92	62.0 才
あなた様または配偶者のご兄弟・姉妹(1)	→	18	33.2 才
あなた様または配偶者のご兄弟・姉妹(2)	→	3	30.2 才
祖父様	→	1	83.0 才
祖母様	→	3	81.8 才

子世帯様(あなた様の世帯)		【同居率は】【平均年齢は】	
		(%)	
ご主人様	→	95	32.4 才
奥様(あなた様)	→	96	34.1 才
お子様(1)《男/女》	→	73	8.9 才
その配偶者	→	(-)	(-) 才
お子様(2)《男/女》	→	52	7.5 才
その配偶者	→	(-)	(-) 才
お子様(3)《男/女》	→	11	6.7 才
その配偶者	→	(-)	(-) 才
お子様(4)《男/女》	→	-	- 才
その配偶者	→	-	- 才
お子様(1)《男/女》	→	-	- 才
お子様(2)《男/女》	→	-	- 才
お子様(3)《男/女》	→	-	- 才

平均家族人数 5.5人

現時点(アンケートご記入時点の)同居ご家族構成

親世帯様(あなた様または配偶者様)		【同居率は】【平均年齢は】	
		(%)	
お父様	→	28	80.6 才
お母様	→	57	79.2 才
あなた様または配偶者のご兄弟・姉妹(1)	→	10	57.7 才
あなた様または配偶者のご兄弟・姉妹(2)	→	2	51.1 才
祖父様	→	(-)	(-) 才
祖母様	→	(-)	(-) 才

子世帯様(あなた様の世帯)		【同居率は】【平均年齢は】	
		(%)	
ご主人様	→	90	57.0 才
奥様(あなた様)	→	96	53.7 才
お子様(1)《男/女》	→	61	23.5 才
その配偶者	→	2	79.4 才
お子様(2)《男/女》	→	51	20.7 才
その配偶者	→	1	31.7 才
お子様(3)《男/女》	→	11	19.2 才
その配偶者	→	0	(-) 才
お子様(4)《男/女》	→	1	13.3 才
その配偶者	→	0	(-) 才
お子様(1)《男/女》	→	2	8.1 才
お子様(2)《男/女》	→	1	10.3 才
お子様(3)《男/女》	→	0	才

平均家族人数 4.3人

二世帯同居ユーザーの変化の実感

子世帯としてスタートした時点では、自分の老後(老化?)についてほとんど考慮していなかった。20年の間に、夫も含めて子世帯も充分高齢化してきている。二階建て二世帯住宅の二階部分で暮らしていたが、外部との応対にはその都度階段を昇降しなければならず、その頻度が多くなって負担である。また親世帯は現在は重度要介護状態なので、形の上では二世帯であるが、実態は完全にひとつの世帯となっている。そのため、設備面では重複したり不要となっている部分も多い。建築にあたっては目的を明確にして、そのための準備を先の方まで考えておくのが良いと思う。高齢社会に向け、バリアフリーや万が一車椅子になったときの事を考え、トイレや居間のドア間口等もっと広くしておけば良かった。

①二世帯同居家族のプロファイルと20年の変遷(ヒューマン)

3. 二世帯同居の親子続柄



夫の親と同居76.5%、妻の親と同居23.5% (同居当初)

夫の親と同居 76.5%

妻の親と同居
23.5%

- 現在の子世帯年齢の中心50代では「妻の親と同居(現在)」が32%とやや高くなっている。
- 二世帯同居生活の不満者の中に「妻の親同居」者がやや少ないことがひとつの示唆となっている。

		全体	(子) F4-1. 同居当初の親子関係			(子) F4-2. 現時点での親子関係			
			夫の親	妻の親	夫の親と妻の親両方	夫の親	妻の親	夫の親と妻の親両方	現在同居の親はなし
子世帯全数		307	76.5	23.5	0.0	51.1	16.9	0.0	31.9
同居状況 F4-2	同居継続者	209	75.1	24.9	0.0	75.1	24.9	0.0	0.0
	現在非同居者	98	79.6	20.4	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
同居継続者	現時点の親子関係(F4-2)	157	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	息子夫婦同居	52	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	娘夫婦同居	70	82.9	17.1	0.0	82.9	17.1	0.0	0.0
	現時点の子世帯妻の年代(Q38-8)	106	67.9	32.1	0.0	67.9	32.1	0.0	0.0
	40代以下	20	95.0	5.0	0.0	95.0	5.0	0.0	0.0
	60代以上	43	74.4	25.6	0.0	74.4	25.6	0.0	0.0
	現在/二世帯同居最終時点の延べ床面積(F7-2)	61	80.3	19.7	0.0	80.3	19.7	0.0	0.0
	40坪未満	50	70.0	30.0	0.0	70.0	30.0	0.0	0.0
	50~60坪未満	44	70.5	29.5	0.0	70.5	29.5	0.0	0.0
	60坪以上	51	80.4	19.6	0.0	80.4	19.6	0.0	0.0
	同居当初の二世帯分離状態(Q20)	52	71.2	28.8	0.0	71.2	28.8	0.0	0.0
	台・浴・玄は各世帯1つ、行き来不可	24	70.8	29.2	0.0	70.8	29.2	0.0	0.0
	台・浴は各世帯に1つ、玄関は共用	58	77.6	22.4	0.0	77.6	22.4	0.0	0.0
	台は各世帯に1つ、浴・玄は共用	15	60.0	40.0	0.0	60.0	40.0	0.0	0.0
台・浴・玄は共用、子世帯キッチン	112	73.2	26.8	0.0	73.2	26.8	0.0	0.0	
二世帯同居生活満足度(Q6)	53	67.9	32.1	0.0	67.9	32.1	0.0	0.0	
かなり満足+満足	34	85.3	14.7	0.0	85.3	14.7	0.0	0.0	
少し満足									
不満者計									



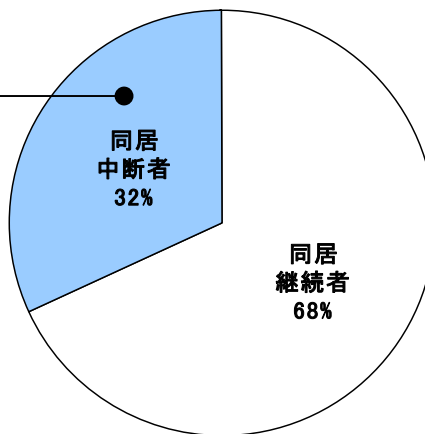
4. 二世帯の解消

二世帯同居でスタートしたヘーベリアンも20年間に「二世帯同居」を1/3(32%)が解消している。これは親の死亡別離という悲しい現実にあづかっている。

同居解消のタイミングは16~20年目が大きな節目になっている。
 /同居解消1~5年目10%、6~10年目16%、11~15年目28%、16~21年目45%

同居中断者の家族死亡年度/回数

~5年目まで	30	0回 7%
~10年目まで	42	1回 32%
~15年目まで	44	2回 54%
~20年目まで	44	3回以上 7%
それ以上	3	
(延合計)	163	



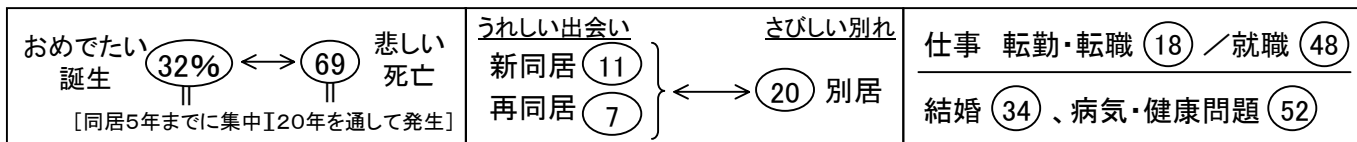
= [平均1.63回の死亡発生]

①二世帯同居家族のプロファイルと20年の変遷(ヒューマン)

5. 二世帯同居家族の20年間の変化年表

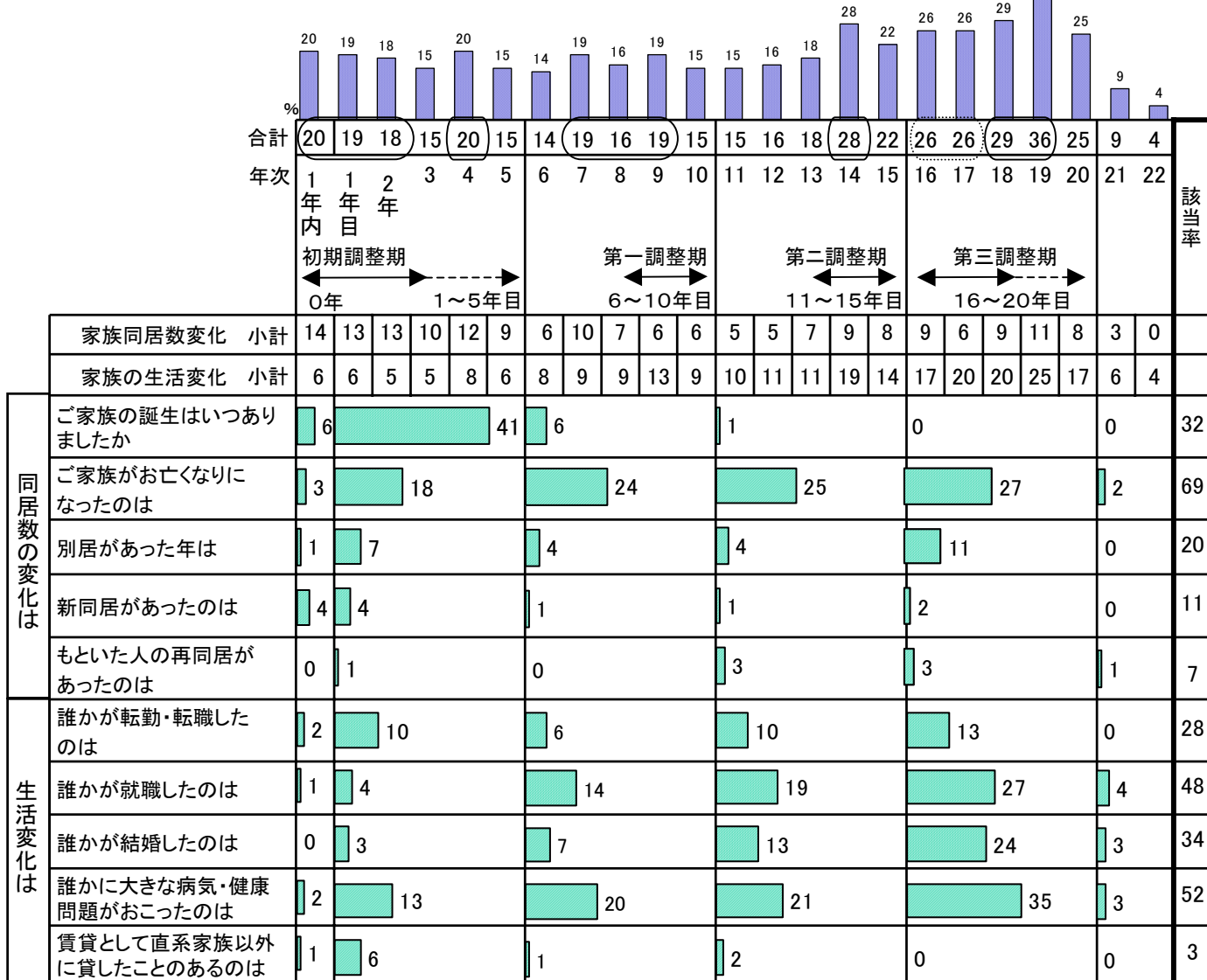
☆20年間に4つ位の変化の山が生じる。

特に15年をむかえるころから20年では家族にとって激動のステージ。



- 孫の誕生は二世帯新居を待ちわびた様に、同居スタートすぐから5年の間に集中します。
- 又、悲しい家族の死去もスタートしてからすぐにあります。6~10年、11~15年、16~20年と4世帯に1世帯の割合で、家族の死去はおこってまいります。
- 就職・結婚が家族の中でおこるのは15年を過ぎるころからぐんと増えます。
- 家族に大きな病気・健康問題がおこるのは5年を過ぎて多くなり、15年を過ぎると3世帯に1世帯を越えるほどの高率で発生してまいります。

家族の「変化」の20年の歩み(発生率)



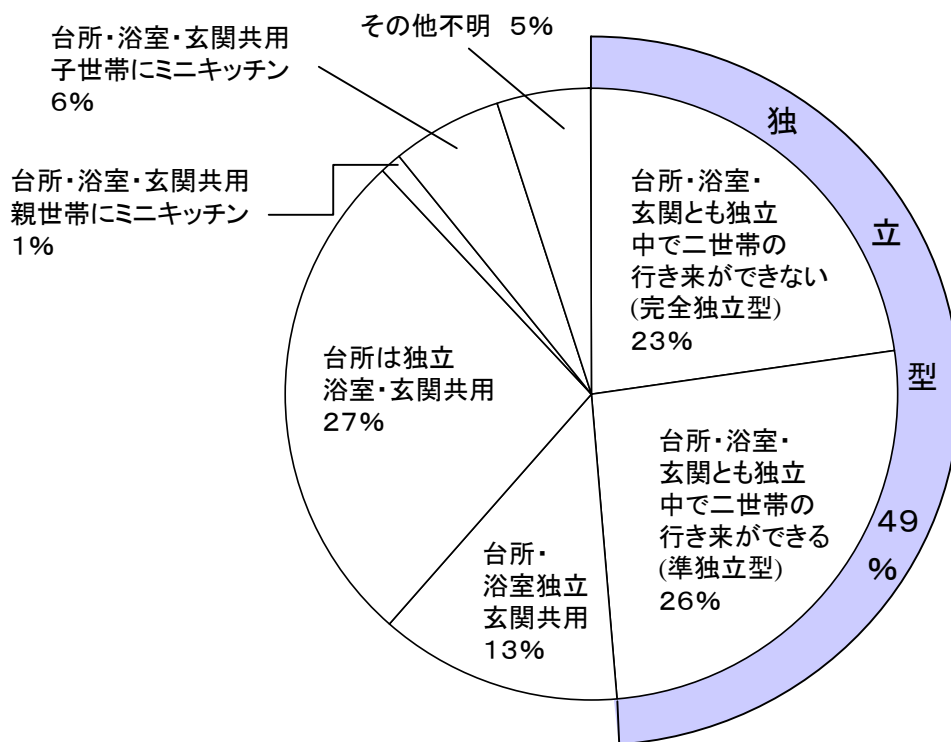


②二世帯同居家族のうつわ(建物／ハード)と変化

1. 二世帯型同居住宅の基本スペック

台所・浴室・玄関が別の独立型が約5割

- ヘーベルハウスが提案する二世帯同居型住宅は「台所」が独立した型です。これに「浴室」「玄関」も世帯別になる独立型が約5割のユーザーの割合を占めます。この独立型は建物の床面積(延べ建坪)が若干大きく建てるユーザーの割合が高くなっています。
- 台所が独立で「浴室」と「玄関」を二世帯共用にしている世帯は全体で27%となっています。この型は建坪40坪未満の比較的小さく建てているユーザーに多くなっています。



		全体	Q20. 同居当初の建物分離状態							その他	不明
			台・浴・玄は各世帯1つ、行き来不可	台・浴・玄は各世帯1つ、行き来可	台・浴は各世帯に1つ、玄関は共用	台は各世帯に1つ、浴・玄は共用	台・浴・玄は共用、親世帯にキッチン	台・浴・玄は共用、子世帯にキッチン			
子世帯全数		307	22.5	26.4	13.0	26.7	1.0	5.9	3.9	0.7	
同居状況 F4-2	同居継続者	209	24.4	24.9	11.5	27.8	0.0	7.2	4.3	0.0	
	現在非同居者	98	18.4	29.6	16.3	24.5	3.1	3.1	3.1	2.0	
同居継続者	現時点の親子関係 (F4-2)	157	26.1	23.6	10.8	28.7	0.0	5.7	5.1	0.0	
	親世帯の年代 (Q38-8)	52	19.2	28.8	13.5	25.0	0.0	11.5	1.9	0.0	
	子世帯妻の年代 (Q38-8)	70	24.3	22.9	11.4	27.1	0.0	10.0	4.3	0.0	
	現在/二世帯同居	106	24.5	25.5	11.3	26.4	0.0	7.5	4.7	0.0	
	最終時点の延べ床面積 (F7-2)	20	30.0	30.0	5.0	30.0	0.0	0.0	5.0	0.0	
	同居当初の二世帯分離状態 (Q20)	43	27.9	14.0	4.7	(37.2)	0.0	14.0	2.3	0.0	
	同居継続者	61	9.8	16.4	(23.0)	(37.7)	0.0	6.6	6.6	0.0	
	同居当初の二世帯分離状態 (Q20)	50	(34.0)	(38.0)	4.0	18.0	0.0	4.0	2.0	0.0	
	同居継続者	44	22.7	(38.6)	9.1	18.2	0.0	4.5	6.8	0.0	
	同居当初の二世帯分離状態 (Q20)	51	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
同居継続者	52	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
同居継続者	24	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
同居継続者	58	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
同居継続者	15	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0		
同居継続者	112	27.7	24.1	11.6	25.0	0.0	4.5	7.1	0.0		
同居継続者	53	24.5	28.3	15.1	24.5	0.0	7.5	0.0	0.0		
同居継続者	34	▲ 8.8	20.6	5.9	(47.1)	0.0	14.7	2.9	0.0		

(行き来不可) (行き来可)



2. 二世帯同居型住宅ユーザーの土地面積

20年の間に88%の世帯がリフォームを実施

- 60坪台16%、50坪台15%のユーザーがピークで多い。50坪未満は20%、70坪～90坪台34%、100坪以上14%のユーザーがいる。

		F7-1. 現在/二終-土地面積は											
		全体	30坪未満	30~40坪未満	40~50坪未満	50~60坪未満	60~70坪未満	70~80坪未満	80~90坪未満	90~100坪未満	100坪以上	不明	
子世帯全数		307	1.3	6.8	11.4	15.3	15.6	12.4	12.1	9.1	14.0	2.0	
同居状況	同居継続者	209	1.4	7.2	8.6	14.8	17.2	12.0	12.9	7.7	15.8	2.4	
F4-2	現在非同居者	98	1.0	6.1	17.3	16.3	12.2	13.3	10.2	12.2	10.2	1.0	
同居継続者	現時点の親子関係(F4-2)	息子夫婦同居	157	1.3	7.0	8.9	14.0	19.1	10.8	12.7	7.0	15.9	3.2
		娘夫婦同居	52	1.9	7.7	7.7	17.3	11.5	15.4	13.5	9.6	15.4	0.0
	現時点	40代以下	70	2.9	7.1	12.9	14.3	14.3	10.0	14.3	5.7	14.3	4.3
	子世帯妻の年代(Q38-8)	50代	106	0.9	7.5	6.6	14.2	17.9	12.3	13.2	9.4	16.0	1.9
		60代以上	20	0.0	5.0	5.0	5.0	25.0	20.0	15.0	10.0	15.0	0.0
	現在/二世帯同居	40坪未満	43	4.7	20.9	23.3	16.3	7.0	9.3	11.6	0.0	4.7	2.3
	最終時点の延べ床面積(F7-2)	40~50坪未満	61	0.0	4.9	11.5	23.0	29.5	8.2	8.2	9.8	4.9	0.0
		50~60坪未満	50	2.0	2.0	2.0	14.0	18.0	22.0	16.0	8.0	16.0	0.0
		60坪以上	44	0.0	2.3	0.0	4.5	13.6	9.1	11.4	13.6	45.5	0.0
	同居当初の二世帯分離状態(Q20)	台・浴・玄は各世帯1つ、行き来不可	51	0.0	9.8	9.8	11.8	13.7	15.7	11.8	3.9	15.7	7.8
		台・浴・玄は各世帯1つ、行き来可	52	1.9	1.9	1.9	11.5	17.3	13.5	15.4	11.5	25.0	0.0
		台・浴は各世帯に1つ、玄関は共用	24	0.0	8.3	4.2	25.0	33.3	8.3	0.0	12.5	4.2	4.2
	台は各世帯に1つ、浴・玄は共用	58	3.4	8.6	6.9	17.2	20.7	12.1	15.5	3.4	12.1	0.0	
	台・浴・玄は共用、子世帯キッチン	15	0.0	13.3	33.3	6.7	0.0	6.7	6.7	13.3	20.0	0.0	
二世帯同居生活満足度(Q6)	かなり満足+満足	112	1.8	7.1	12.5	14.3	13.4	11.6	16.1	5.4	15.2	2.7	
	少し満足	53	0.0	7.5	1.9	13.2	26.4	15.1	3.8	9.4	20.8	1.9	
	不満者計	34	2.9	5.9	8.8	20.6	14.7	11.8	17.6	11.8	5.9	0.0	

3. 二世帯同居型住宅の建坪(総床面積)

- 40坪台33%、50坪台24%の集中が高い。
- 共用部分が多いユーザーは30坪台、40坪台の土地からの制約もかい間みられる。

		F7-2. 現在/二終-建物面積は								
		全体	30坪未満	30~40坪未満	40~50坪未満	50~60坪未満	60~70坪未満	70坪以上	不明	
子世帯全数		307	5.2	13.4	32.9	24.1	12.1	6.8	5.5	
同居状況	同居継続者	209	6.2	14.4	29.2	23.9	12.4	8.6	5.3	
F4-2	現在非同居者	98	3.1	11.2	40.8	24.5	11.2	3.1	6.1	
同居継続者	現時点の親子関係(F4-2)	息子夫婦同居	157	5.7	14.6	31.2	22.3	12.7	7.0	6.4
		娘夫婦同居	52	7.7	13.5	23.1	28.8	11.5	13.5	1.9
	現時点	40代以下	70	8.6	8.6	20.0	32.9	10.0	10.0	10.0
	子世帯妻の年代(Q38-8)	50代	106	4.7	17.0	34.9	20.8	13.2	6.6	2.8
		60代以上	20	10.0	15.0	25.0	15.0	20.0	15.0	0.0
	同居当初の二世帯分離状態(Q20)	台・浴・玄は各世帯1つ、行き来不可	51	9.8	13.7	11.8	33.3	11.8	7.8	11.8
		台・浴・玄は各世帯1つ、行き来可	52	5.8	5.8	19.2	36.5	17.3	15.4	0.0
		台・浴は各世帯に1つ、玄関は共用	24	4.2	4.2	58.3	8.3	12.5	4.2	8.3
		台は各世帯に1つ、浴・玄は共用	58	3.4	24.1	39.7	15.5	8.6	5.2	3.4
		台・浴・玄は共用、子世帯	15	6.7	33.3	26.7	13.3	6.7	6.7	6.7
	二世帯同居生活満足度(Q6)	かなり満足+満足	112	7.1	13.4	27.7	27.7	9.8	8.9	5.4
		少し満足	53	3.8	9.4	30.2	20.8	20.8	11.3	3.8
	不満者計	34	8.8	23.5	32.4	20.6	8.8	2.9	2.9	



②二世帯型同居家族のうつわ(建物／ハード)と変化

3. リフォーム実施理由

「内装」へのリフォーム実施率が6割と高く、「新設備」「水廻り」の交換リフォームも4割強～6割弱が実施。リフォーム最大の動機(きっかけ)となっている。又、「家族変化」要因もリフォームの大きな理由になっている。

「リフォーム」実施へ二世帯同居ユーザーは、20年間の家族の変化のマップ化で情報提供は極めて大切なことと思われる。

- リフォーム実施理由としては「内装を美しくしたかったので」が最も高い理由。特に子世帯60才以上の上の世帯では「内装」のために行なったとの理由の集中がみられる。
- 次いで設備・器具の「不具合・故障がおこるので」と「前のものが使いにくくなった」との「不調」が理由としては高い。
- 3番目の理由としては「子供が成長したので」があげられている。特に子世帯40代以下の若い世帯では「子供の成長」がリフォーム実施の理由として高く、「内装を美しくしたい」に次いでいる。

リフォーム実施ベースN=265

子世帯年代

		子世帯年代			
		～40代	50代	60代～	
人数	家族人数が増えたので	8	12	8	0
	家族人数が減ったので	6	0	2	6
ステージ	子供が成長したので	26	43	26	6
	家族のライフステージがかわったので	11	15	12	11
	(進学10人／退職・定年10人／結婚13人)	17	12	18	17
健康	高齢者のため／高齢化に備えて	17	2	8	6
	介護の必要性で	11	2	6	0
	家族の健康、不調の問題が生じてきたので	5	2	6	0
スタイル	家族のライフスタイルがかわってきたので	16	14	21	17
	家族のライフステージがかわった	15	15	14	6
	趣味等の都合で	3	0	5	6
	仕事の都合で	2	3	1	0
快適性	住宅の環境が悪くなったので	4	3	6	0
	荷物が増えてきたので／収納が使いにくいので	9	12	12	17
	住宅の安全性(地震等に対して)を高めたかったので	1	0	2	0
審美性	内装を美しくしたかったので	52	49	47	61
	外装に飽きて／気分一新で	6	3	6	11
家事がしにくいので		11	6	14	17
不調	不具合・故障がおこるので	34	35	35	28
	前のものが使いにくくなったので	24	28	23	22
その他	賃貸を考えて	0.4	0	0	0
	その他	5	5	7	6

②二世帯型同居家族のうつわ(建物／ハード)と変化

4. 建物の主要部分「玄関・浴室・キッチン」の二世帯仕様と変化

玄関・浴室とも世帯独立意向が高い

分離状態変更リフォームの意向(Q25)

共用から→専用へ 専用から→共用へ
(ひとつ) (二つ) (二つ) (ひとつ)

玄関	N=142 (46%) 共用率 意向 35.9%	N=155 (51%) 専用率 意向 5.2
	N=119 (39%) 共用率 意向 30.3	N=180 (59%) 専用率 意向 3.3
キッチン	N=307 意向 3.3	

- 概ね、15~20%で共用、専用スペースの使い方変更、ハード変更が行なわれた。
- 又、リフォームもままならず、我慢している様子もかいまみえる。
- 「共用」のもつ問題点が大きく浮き彫りになった。30~40%の共用世帯で専用化(二つ化)への希望がある。
- - ・スペースの都合／予算の都合によって共用にせざるを得ない
 - ・専用より共用のメリットを「多」とした

など様々な経緯で初期設計で「共用」にしたのであろうが……

- ☞ 初期設計の段階で「専・共」どちらがよいかを判断できる「コンサルシステム」が必要であろう
- ☞ 又、狭い、お金ないをクリアする設計技術・手法も求められよう

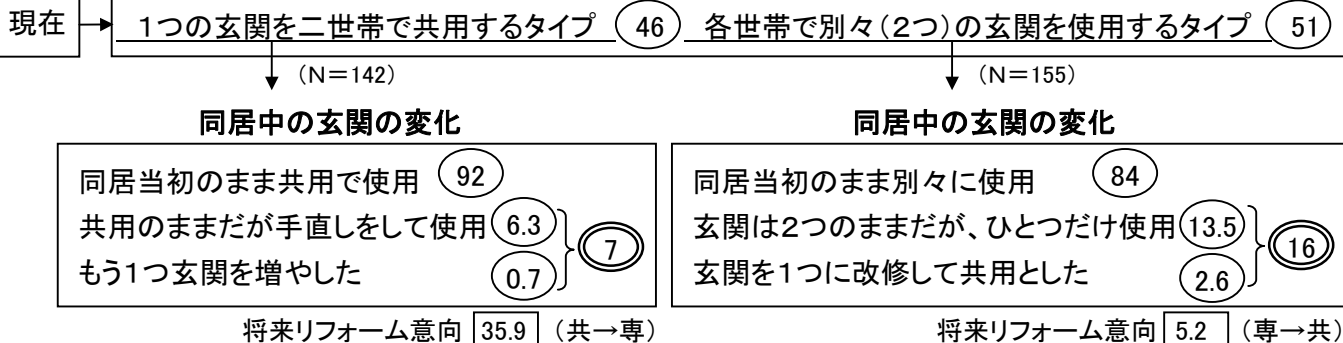
玄関

- 現在「1つの玄関を二世帯で共用」している世帯は46%ですが、この世帯の36%は玄関を「共用」から「専用」にリフォームしたいとの将来意向を持っています。
- 逆に現在「世帯で別々の玄関を使用」世帯は51%おり、この世帯では「専用」から「共用」への意向は、ほとんど持っていません。

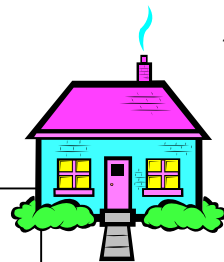
実際の割合以上に専用玄関への意向は高い

変化があった理由

- ・狭い
 - ・防犯
 - ・二世帯解消
- } 専 → 共



②二世帯型同居家族のうつわ(建物／ハード)と変化



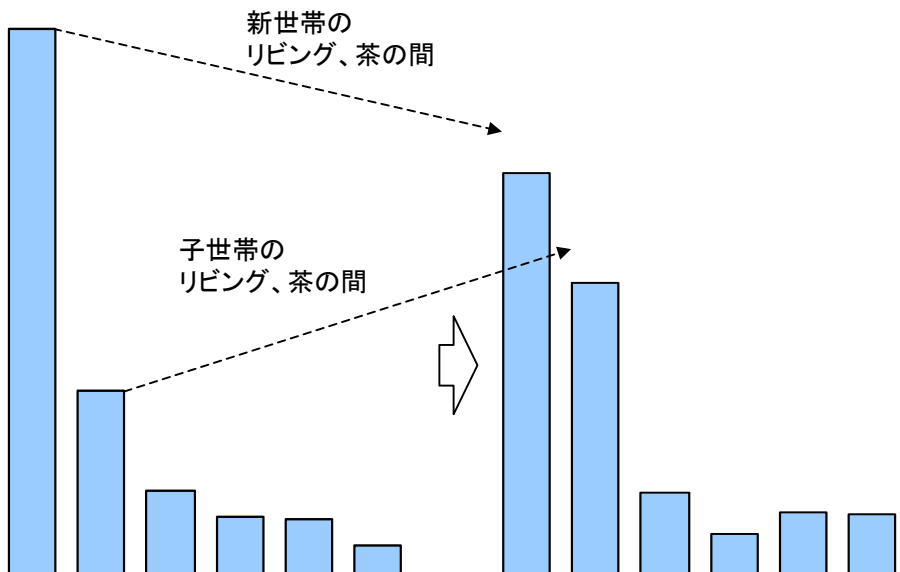
5. 二世帯が集まる場所

二世帯が集まる場所は「親世帯のリビング、茶の間」が多い。
しかし、新築当時からだんだん「子世帯」へも移ってくる世帯も増える。

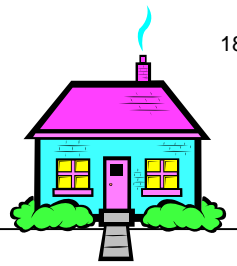
- 現在も同居を続けている世帯でみると二世帯の集まる場所は、新築当時(20年前)は「親世帯のリビング、茶の間」が63%と集中が高い。「子世帯のリビング、茶の間」は14%と少ない。
- これが今は「親世帯」47%となり、「子世帯」は29%に少し移っている。

「同居当初」
集まる場所

「現在(二世帯最後)」
集まる場所



		Q13-1. 同居当初-集まる場所は						Q13-2. 現在/二終-集まる場所は						
		全体	親世帯の リビング、 茶の間	子世帯の リビング、 茶の間	共用のリ ビング、 茶の間	その他	両世帯が 集まる場 所は特に ない	不明	親世帯の リビング、 茶の間	子世帯の リビング、 茶の間	共用のリ ビング、 茶の間	その他	両世帯が 集まる場 所は特に ない	不明
二世帯全数		307	56.7	19.2	8.8	6.2	5.9	3.3	42.3	30.9	8.8	4.6	6.8	6.5
同居状況														
同居継続者		209	63.2	14.4	8.1	6.7	5.3	2.4	47.4	29.2	8.6	4.8	6.2	3.8
F4-2 現在非同居者		98	42.9	29.6	10.2	5.1	7.1	5.1	31.6	34.7	9.2	4.1	8.2	12.2
現時点の 親子関係(F4-2)														
息子夫婦同居		157	63.7	14.0	6.4	7.6	5.7	2.5	45.9	31.2	8.3	4.5	5.7	4.5
親夫婦同居		52	61.5	15.4	13.5	3.8	3.8	1.9	51.9	23.1	9.6	5.8	7.7	1.9
現時点 子世帯妻の年代 (Q38-8)														
40代以下		70	74.3	4.3	7.1	5.7	7.1	1.4	52.9	24.3	8.6	5.7	7.1	1.4
50代		106	55.7	20.8	10.4	7.5	4.7	0.9	46.2	33.0	9.4	3.8	4.7	2.8
60代以上		20	65.0	15.0	0.0	0.0	5.0	15.0	30.0	40.0	5.0	0.0	10.0	15.0
同居当初の 二世帯分離状態 (Q20)														
台・浴・玄は各世帯1つ、行き来不可		51	70.6	13.7	0.0	5.9	7.8	2.0	52.9	31.4	0.0	3.9	7.8	3.9
台・浴・玄は各世帯1つ、行き来可		52	69.2	9.6	1.9	9.6	3.8	5.8	53.8	26.9	1.9	5.8	5.8	5.8
台・浴は各世帯に1つ、玄関は共用		24	58.3	16.7	8.3	12.5	4.2	0.0	37.5	41.7	8.3	0.0	8.3	4.2
台は各世帯に1つ、浴・玄は共用		58	63.8	20.7	1.7	5.2	6.9	1.7	43.1	34.5	5.2	6.9	6.9	3.4
台・浴・玄は共用、子世		15	26.7	6.7	66.7	0.0	0.0	0.0	26.7	6.7	60.0	6.7	0.0	0.0
二世帯同居生活 満足度 (Q6)														
かなり満足+満足		112	65.2	14.3	8.0	4.5	4.5	3.6	42.9	33.9	9.8	3.6	3.6	6.3
少し満足		53	67.9	15.1	9.4	3.8	1.9	1.9	54.7	28.3	7.5	1.9	7.5	0.0
不満者計		34	55.9	11.8	5.9	11.8	14.7	0.0	55.9	17.6	5.9	5.9	11.8	2.9

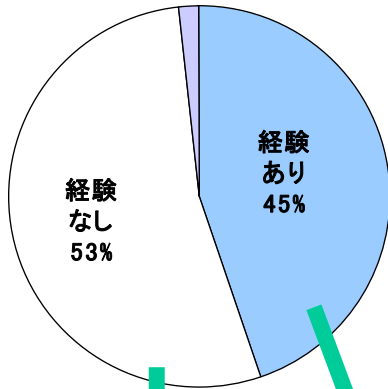


1. 相続の発生

20年間で親が亡くなり、相続が45%の世帯で発生

- 45%と半分近くの世帯で相続が発生。
- 現在同居継続者でも30%の世帯で相続を経験している。
- 子世帯が現在40才台以下では経験なし77%で、これからの人も多い。

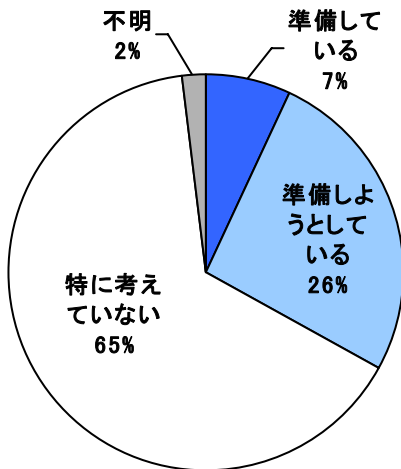
不動産の相続経験



		全体	Q29.「HH. 建築地」の相続経験		
			経験がある	経験はない	不明
子世帯全数		307	44.6	53.7	1.6
同居状況	同居継続者	209	30.1	68.4	1.4
	現在非同居者	98	75.5	22.4	2.0
現時点の親子関係 (F4-2)	息子夫婦同居	157	33.8	64.3	1.9
	娘夫婦同居	52	19.2	80.8	0.0
同居継続者	現時点の子世帯妻の年代 (Q38-8)				
	40代以下	70	22.9	77.1	0.0
	50代	106	36.8	63.2	0.0
	60代以上	20	30.0	55.0	15.0
	現在/二世帯同居				
	40坪未満	43	23.3	76.7	0.0
	最終時点の延べ床面積 (F7-2)				
	40～50坪未満	61	29.5	70.5	0.0
	50～60坪未満	50	36.0	60.0	4.0
	60坪以上	44	29.5	68.2	2.3

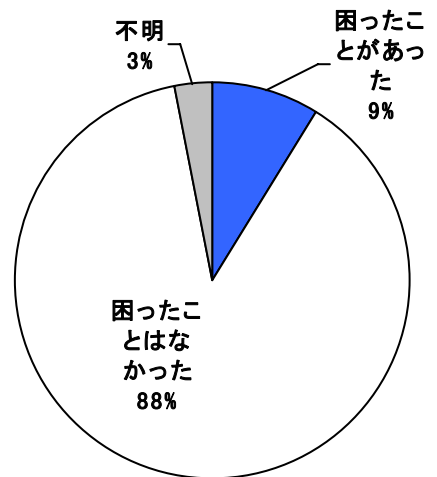
相続についての準備

N=166



- 「準備している」は7%、「準備しようとしている」人は26%。
- 「特に考えていない」人は2/3の世帯。

名義・権利関係で困ったこと



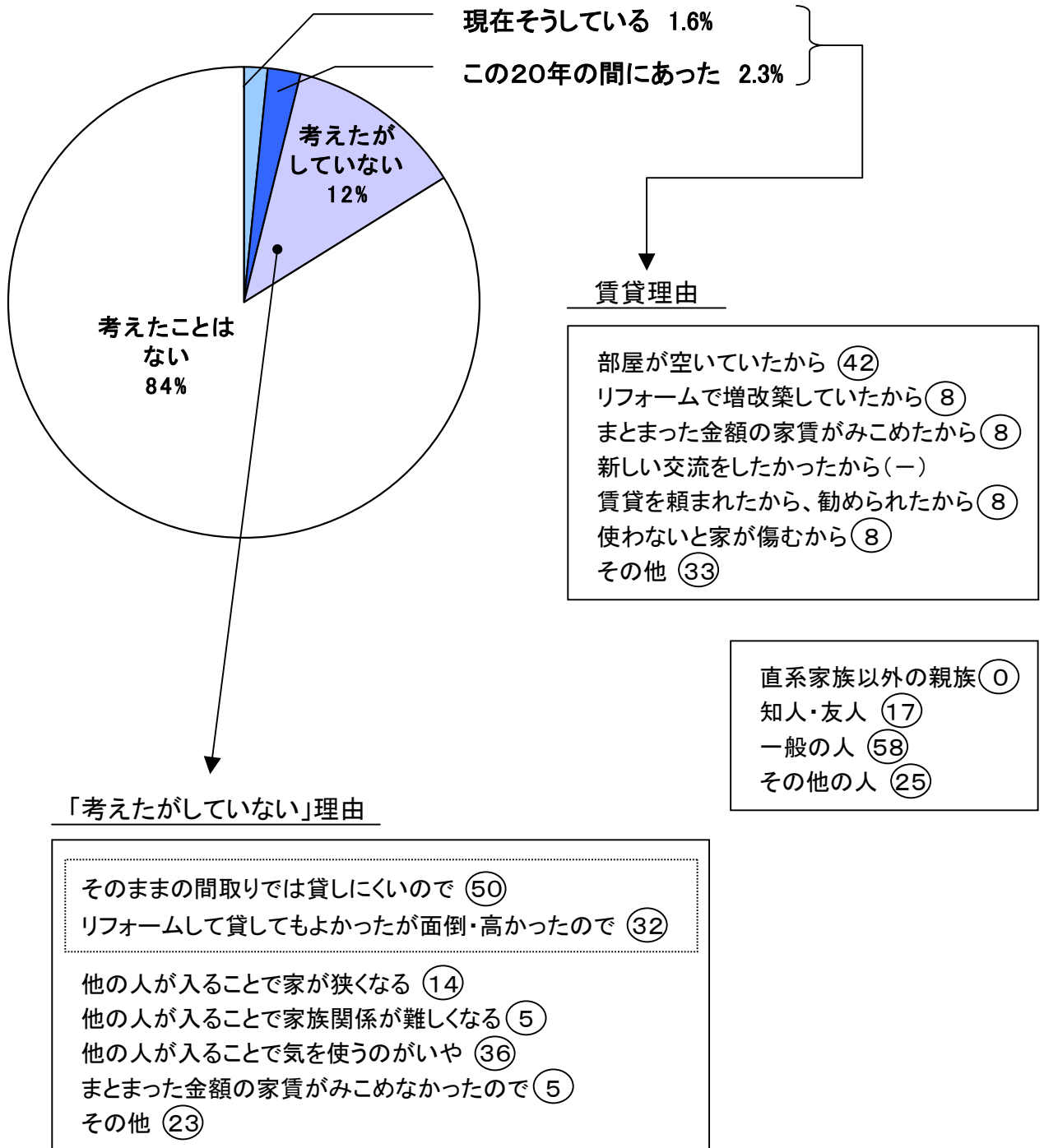
- 88%は「困ったことはなかった」としている。
- 9%の世帯で相続時にトラブルを経験。

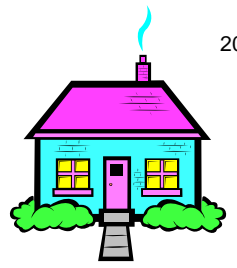
2. 賃貸の発生

現在「賃貸している」世帯は2%、考えたこともない世帯84%がほとんど

- 現在賃貸2%、この20年で経験2%を合わせても賃貸経験は4%の世帯に過ぎない。
- 「考えたがしていない」世帯も7%と、賃貸はあまり意識されていない。しかし、二世帯同居型住宅の特性を考えて、賃貸というメリットがもう少し考慮されてもよい様に思われる。

賃貸の発生



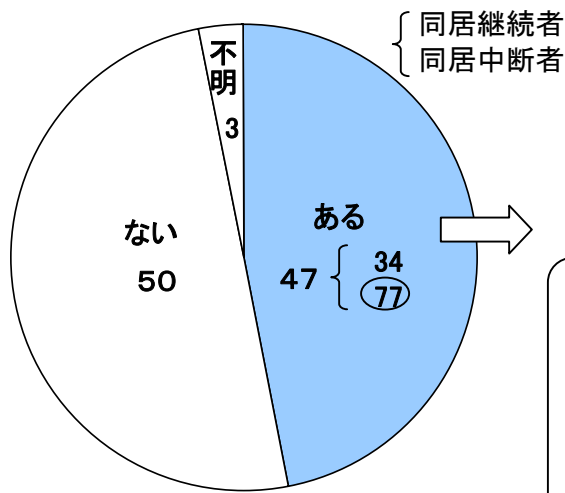


3. 介護経験の発生

20年も二世帯同居をすると半分近くの世帯で介護が発生する

- 同居中断者では77%が介護を経験して、「二世帯の解消(死亡別離)」している。
- 現在同居継続世帯でも、子世帯が60代の世帯では60%が介護を経験している。
- 20年前に出発した二世帯同居型住宅ではほとんどそれに対応しておらず、大きな課題となっている。
- この課題の中には基本設計で処理(対応)するもの、リフォームで対応できるもの両者があると思われる。

介護経験(Q19)



使い勝手／介護で困った点

- 各部屋の出入口の狭さ／廊下の狭さ
- 階段の昇り降り大変
- 1、2F別々が不便(特に完全分離で外からの往来大変)
- バリアフリーでない(段差ある、手スリない[風呂、トイレ...])
- 車椅子使用できない
- トイレ使用(入りにくい、狭い)が大変

		全体	Q19. 介護経験			
			介護の経験がある	ない	不明	
子世帯全数		307	47.2	49.5	3.3	
同居状況	同居継続者	209	33.5	63.2	3.3	
F4-2	現在非同居者	98	(76.5)	20.4	3.1	
同居継続者	現時点の親子関係(F4-2)					
		息子夫婦同居	157	31.2	65.0	3.8
		娘夫婦同居	52	40.4	57.7	1.9
	現時点の子世帯妻の年代(Q38-8)					
		40代以下	70	20.0	77.1	2.9
		50代	106	36.8	61.3	1.9
		60代以上	20	60.0	25.0	15.0
	同居当初の二世帯分離状態(Q20)					
		台・浴・玄は各世帯1つ、行き来不可	51	29.4	68.6	2.0
		台・浴・玄は各世帯1つ、行き来可	52	42.3	53.8	3.8
	台・浴は各世帯に1つ、玄関は共用	24	37.5	58.3	4.2	
	台は各世帯に1つ、浴・玄は共用	58	34.5	60.3	5.2	
	台・浴・玄は共用、子世帯	15	13.3	86.7	0.0	
二世帯同居生活満足度(Q6)						
	かなり満足+満足	112	29.5	67.0	3.6	
	少し満足	53	41.5	56.6	1.9	
	不満者計	34	38.2	55.9	5.9	



③その他二世帯型同居家庭経営20年でおこった事／課題

4. 「子世帯の子供」の結婚と同居

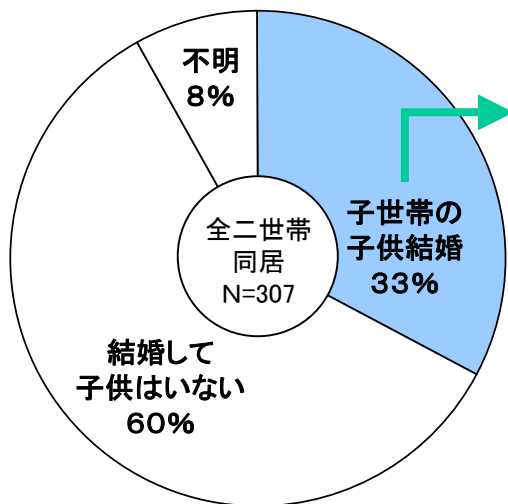
同居する親世帯の孫も1/3の世帯で結婚

- 子世帯の子供も33%の世帯ですでに結婚。40才台以下の子世帯では、子供の結婚は6%に過ぎず、これからの大きな変化を迎える。
- 子世帯が60才台以上の世帯ではその子供の2/3(65%)がすでに結婚。親子孫+ひ孫の構成になりつつある。

結婚した孫世代33%のさらに22%は同居経験あり

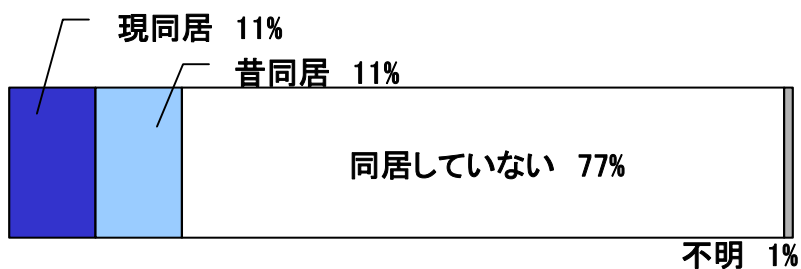
- 子世帯の子供の結婚は33%、そのうちの11%が現在同居。同じく11%が一時同居経験あり。

子世帯の子供の結婚



結婚孫世代の同居

N=100



		全体	Q17. 子供の未既婚		
			結婚した子供がいる	結婚した子供はいない	不明
子世帯全数		307	32.6	59.9	7.5
同居状況 F4-2	同居継続者	209	25.4	67.5	7.2
	現在非同居者	98	48.0	43.9	8.2
現時点の 親子関係(F4-2)	息子夫婦同居	157	23.6	68.8	7.6
	娘夫婦同居	52	30.8	63.5	5.8
	現時点 子世帯妻の年代 (Q38-8)				
同居 継続者	40代以下	70	5.7	88.6	5.7
	50代	106	29.2	64.2	6.6
	60代以上	20	65.0	20.0	15.0
	同居当初の 二世帯分離状態 (Q20)				
	台・浴・玄は各世帯1つ、行き来不可	51	25.5	70.6	3.9
台・浴・玄は各世帯1つ、行き来可	52	25.0	67.3	7.7	
台・浴は各世帯に1つ、玄関は共用	24	20.8	70.8	8.3	
台は各世帯に1つ、浴・玄は共用	58	29.3	63.8	6.9	
台・浴・玄は共用、子世	15	26.7	60.0	13.3	
二世帯同居生活 満足度 (Q6)	かなり満足+満足	112	25.0	67.9	7.1
	少し満足	53	22.6	69.8	7.5
	不満者計	34	32.4	58.8	8.8



第二章

20年間二世帯生活の方法論



1. スタート時二世帯型住宅新築時「以前」の親同居

二世帯型住宅スタート時「初めて同居」は2/3

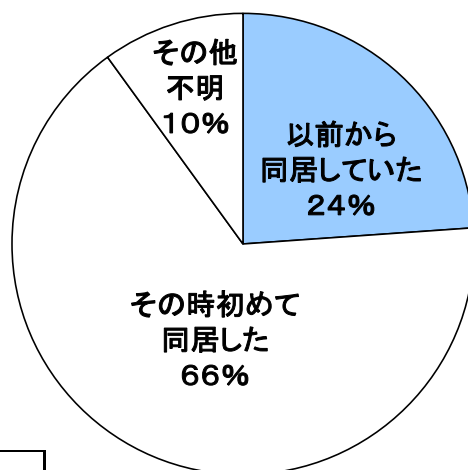
- 二世帯同居型住宅を新築以前からの親との同居は24%と1/4の世帯。
- 「新築時」子世帯が30代である場合、28%がそれ以前から親と同居している家族であった。

完全分離型二世帯住宅は初めて同居が高い

- 完全分離型(台・浴・玄別、中で行き来不可)ユーザーは「その時初めて同居」が80%と高い比率。

二世帯不満層は以前からの長い同居者？

- 二世帯同居不満層の32%は新築以前からの長い同居世帯。



		Q4. 「HH」新築以前の同居状況					
		全体	以前から同居していた	その時初めて同居した	その他	不明	
子世帯全数		307	24.4	65.8	6.8	2.9	
同居状況 F4-2	同居継続者	209	21.5	69.4	6.7	2.4	
	現在非同居者	98	30.6	58.2	7.1	4.1	
同居継続者	現時点の親子関係 (F4-2)						
		息子夫婦同居	157	20.4	70.7	6.4	2.5
		娘夫婦同居	52	25.0	65.4	7.7	1.9
	現時点 子世帯妻の年代 (Q38-8)						
		40代以下	70	10.0	82.9	4.3	2.9
		50代	106	28.3	63.2	8.5	0.0
		60代以上	20	25.0	55.0	10.0	10.0
	同居当初の二世帯分離状態 (Q20)						
		台・浴・玄は各世帯1つ、行き来不可	51	13.7	(80.4)	2.0	3.9
		台・浴・玄は各世帯1つ、行き来可	52	23.1	65.4	7.7	3.8
二世帯同居生活満足度 (Q6)							
		台・浴は各世帯に1つ、玄関は共用	24	20.8	70.8	8.3	0.0
		台は各世帯に1つ、浴・玄は共用	58	25.9	67.2	6.9	0.0
		台・浴・玄は共用、子世帯	15	20.0	66.7	6.7	6.7
	かなり満足+満足	112	20.5	69.6	8.9	0.9	
	少し満足	53	20.8	71.7	5.7	1.9	
	不満者計	34	(32.4)	64.7	2.9	0.0	

「ヘーベルハウス」で同居する以前の、親世帯と同居経験

以前から同居していた (24) その時初めて同居した (66) その他 (7)

「親世帯のお母様」のその上の世代のお母様(姑)との同居経験 (いわゆる嫁姑経験)

同居経験ある (30) 同居の経験ない (43) 不明 (27)



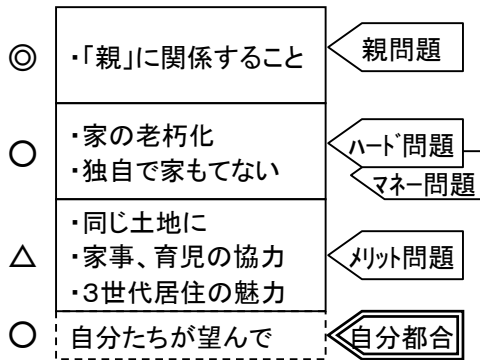
2. 二世帯同居を始めた理由、きっかけ

- 子世帯にとっての二世帯同居は「親が望んだから」「親の老後のことを考えたから」がトップの理由になっている。「親が望んだから」は親子関係としては「息子夫婦同居」の場合により高くなっている。「親の老後のことを考えて」は、現在50代以上の子世帯で高く、同居当初は30代であり、30代で同居を始める時には理由の上位になっている。(実感を持っていたかは別)
- ただし、「親が老齢化・病弱化してきたから」との現実があったのは現60代子世帯。
- 次いで「家の老朽化」があげられる。
- その次の理由としては「自分たちが望んだ(子世帯)」「親子3代で楽しく暮らしたい」「独自に家を持つことが困難だから」「家事・育児で協力しあえるから」があげられている。これらは親子関係としては「娘夫婦同居」の場合により高く評価されている。娘が親にあまえる関係がみられる。
- 「娘夫婦同居」の場合、「同じ土地に住みたい」「日常生活のうえで経済的に助かるから」なども高くあげられている。

	子世帯評価	親子関係		現子世帯年齢		
		息子	娘	~40代	50代	60代~
親が望んだから	54	57	> 42	53	54	50
親の老後のことを考えたから	53	44	48	37	53	50
家が老朽化し建て替えや新築が必要になったから	41	42	35	43	42	25
自分たちが望んだから	35	30	< 44	36	36	25
親子孫の3世代で楽しく暮らしたいから	31	29	< 40	40	> 32	> 20
独自に家を持つことが困難だから	31	28	< 46	36	35	15
親が老齢化・病弱化してきたから	28	19	21	11	< 21	< 40
家事・育児等で協力しあえるから	27	22	54	37	31	5
同じ土地に住みたかったから	27	22	< 35	27	26	20
子供の誕生や成長で住居が手狭になったから	23	21	25	21	23	20
日常生活のうえで経済的に助かるから	20	18	< 35	23	23	15
親子が同居するのは当然だから	15	15	8	16	13	5
親の資産の継承を考えたから	15	12	21	17	13	5
結婚して新居が必要になったから	13	15	17	24	14	0
子供の就学や進学で転居した方がよかったから	9	6	10	0	12	5
転勤・転職等で転居が必要になったから	7	5	12	3	5	25
親と家事・家業をともにしていたから	3	3	4	6	1	5



●「きっかけ」と「背後にある理由」とが混在し、複雑な心理メカニズムで「H.H.」二世帯住宅に決まってくる。



●最初のいきさつはその後の満足、不満にどの位影響するか

主なきっかけ・理由

	親の老後を考えて	三世代楽しく	独自に家もてない	自分たちが望んで	親が望んで	家が老朽化して
同居満足者 (112) →	48	34	37	38	53	44
少し " (53) →	53	38	36	34	57	30
不満者 (34) →	24	27	21	24	56	47

「子世帯」がやや強制的に二世帯同居に突入した場合は → 不満が大きくなる。

3. 二世帯のあいだの交流のしかた意識



「両世帯の生活はすべて別」との意識が高い

- 同居当初「生活はすべて別」との意識で64%の世帯が出発。現在も約6割がそう思っている。「生活はすべて別」で「交流が盛ん」と思う世帯と生活はすべて別で「お隣さん感覚」にさらに意識が分かれている。
- 「生活がすべての面において一緒」は当初も現在も7~8%の割合に過ぎない。

	同居当初	現在	同居継続者子世帯の							
			現年代別			分離度別				
			30代	50代	60代	完全	準	玄のみ	玄・浴	
両世帯の生活はすべて別でお隣さん感覚	28	26	27	26	20	39	31	38	14	
両世帯の生活はすべて別だが、交流が盛ん	36	33	34	30	35	41	46	38	19	
両世帯の生活はある程度一緒だが、食事、団らんは別々	15	16	17	18	10	6	0	4	41	
両世帯の生活は基本的に一緒だが、時々別の時間を持つ	11	12	13	11	10	4	14	8	10	
両世帯の生活はすべての面において一緒	7	8	4	8	10	0	4	8	10	

4. 両世帯の集まる場所

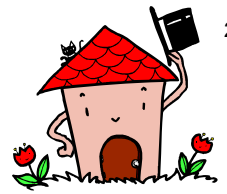
親世帯のリビング、茶の間が二世帯の集まる場所

- 同居当初「親世帯のリビング、茶の間」が57%の集中をみせているが、現在は42%とやや落ちている。
- 「子世帯のリビング、茶の間」がそれに次いでいるが、同居当初19%だったのが現在は31%に年とともにあがっている。

両世帯の集まる場所(Q13)

	同居当初	現在(終了時)	
親世帯のリビング、茶の間	57	42	親のリビング
子世帯のリビング、茶の間	19	31	子のリビング
共用のリビング、茶の間	9	9	
その他(具体的に:)	6	5	
両世帯が集まる場所は特にな	6	7	

現在	同居継続者子世帯の							
	現年代別			分離度別				
	30代	50代	60代	完全	準	玄のみ	玄・浴	
親のリビング	63	74	56	65	71	69	58	64
子のリビング	14	4	21	15	14	10	17	21



二世帯同居世帯の夕食の一緒率は現在30%

- 朝食一緒は16%、昼食17%、夕食後のくつろぎ18%、と現在の日常の一緒率はさほど高くない。同居当初よりやや上がった程度。
- 休日の団らんは17%、昼食のお茶やおやつは19%、これは同居当初よりやや下降ぎみ。
- お正月などの行事70%、誕生日などの特別な日57%は高いが、同居当初より「一緒率」は低下している。
- 旅行などレクリエーションの二世帯一緒率は22%。これは同居当初とほぼ同じ率となっている。

TPO別交流状況/一緒率(Q12)

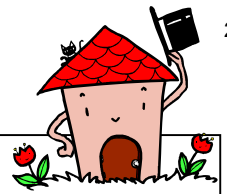
同居継続者
中断者/終了者

	同居当初	現在 (終了時)	
朝食 -----	12 { ¹² / ₁₄ }	16 { ¹² / ₂₆ }	朝
昼食 -----	13 { ¹² / ₁₆ }	17 { ¹² / ₂₆ }	昼
夕食 -----	(22) { ²⁰ / ₂₅ }	(30) { ²⁵ / ₄₁ }	夕
夕食後のくつろぎ -----	16 { ¹³ / ₂₁ }	18 { ¹⁵ / ₂₄ }	夕後
休日の団らん -----	18 { ¹⁵ / ₂₄ }	17 { ¹³ / ₂₇ }	休日
昼食のお茶やおやつ -----	23 { ¹⁷ / ₃₄ }	19 { ¹⁵ / ₂₈ }	昼お茶
お正月などの行事 -----	81 { ⁷⁹ / ₈₅ }	70 { ⁷¹ / ₆₈ }	正月
誕生日などの特別な日 -----	70 { ⁶⁸ / ₇₅ }	57 { ⁵⁵ / ₆₂ }	誕生日
旅行などのレクリエーション ---	23 { ²⁰ / ₂₈ }	22 { ¹⁹ / ₂₉ }	レク

同居継続者子世帯の

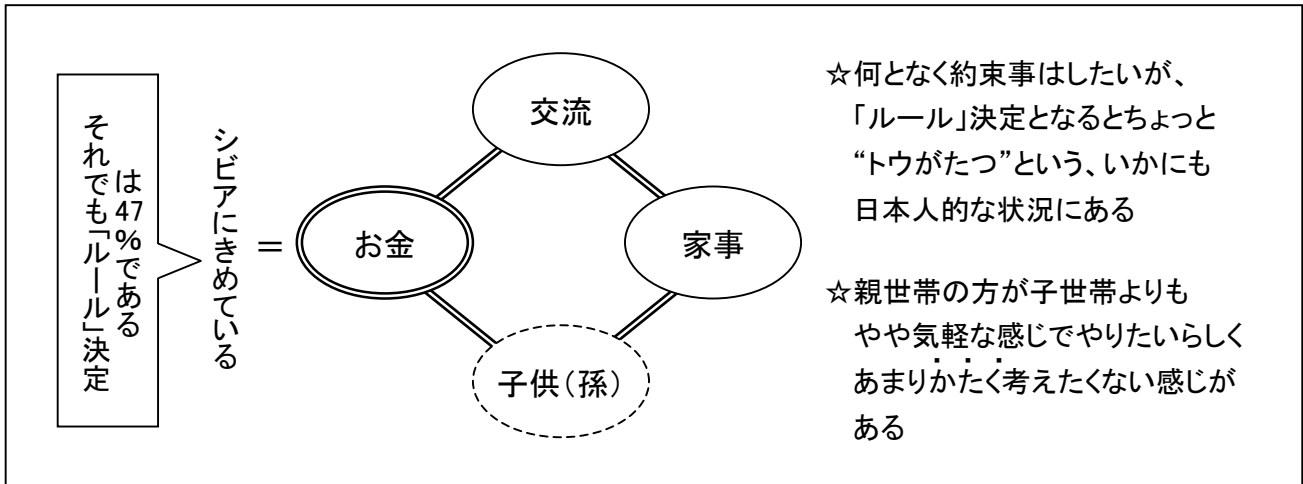
現在	現年代別			分離度別			
	50代	60代	70代	完全	準	玄のみ	玄・浴
朝	11	9	(20)	2	10	4	10
昼	10	12	(15)	4	10	4	14
夕	23	26	20	11	19	33	24
夕後	11	16	20	2	14	21	14
休日	9	13	20	2	10	17	10
昼お茶	11	14	20	2	17	8	14
正月	67	75	60	59	67	71	78
誕生日	59	54	40	41	48	54	60
レク	16	21	20	10	19	25	19

子供 ← (50代, 60代, 70代)
共用 ← (完全, 準, 玄のみ, 玄・浴)



「家事に関するルール」を同居当初に話し合っで決めている率は2割程度。
 「二世帯の交流の仕方に関するルール」「子供(孫)の教育に関するルール」も
 「同居当初に話し合っで決めた」率は1割程度に過ぎない。

- 「費用負担に関するルール」も子世帯47%、親世帯39%と「当初決めた」意識の理解が異なっているが、いずれにしても5割に満たない。「何となく決まった感じ」でいろいろなルールが推移して来ている。
- 建物の分離が進む程「決め事」が少ないのは物理的問題で、年代が上の世帯で少ないのは子世帯のイニシアティブといった事情はあると思われるが、キチンとするのは「はばかれる」意識が強い様に思われる。



【同居継続者子世帯】

	同居当初に (⊕)何となく話し合っで決めた		年代			分離度			
	子世帯	親世帯	50代	60代	50代	完全	準	玄	
								の	浴
家事に関するルール -----	18 (82)	21 (74)	14	21	5	18	8	21	24
共用空間の使い方に関するルール -----	13 (76)	18 (76)	9	15	5	14	6	13	16
費用負担に関するルール -----	47 (86)	39 (79)	46	52	25	29	39	67	60
二世帯の交流の仕方に関するルール -----	12 (79)	8 (69)	3	12	10	8	8	17	14
子供(孫)の教育に関するルール -----	10 (67)	7 (51)	6	10	0	8	6	8	12

↓
 当時は30代で若すぎず、上すぎずではっきりものがいえた⇒ルール決定へ

↓
 ルール決定という儀式が必要になる



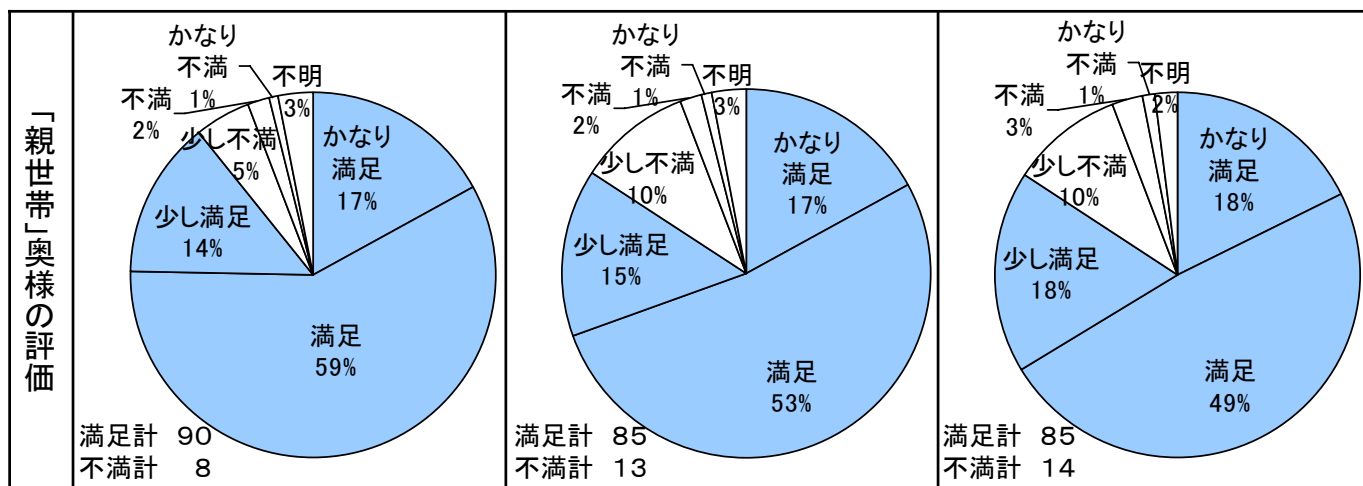
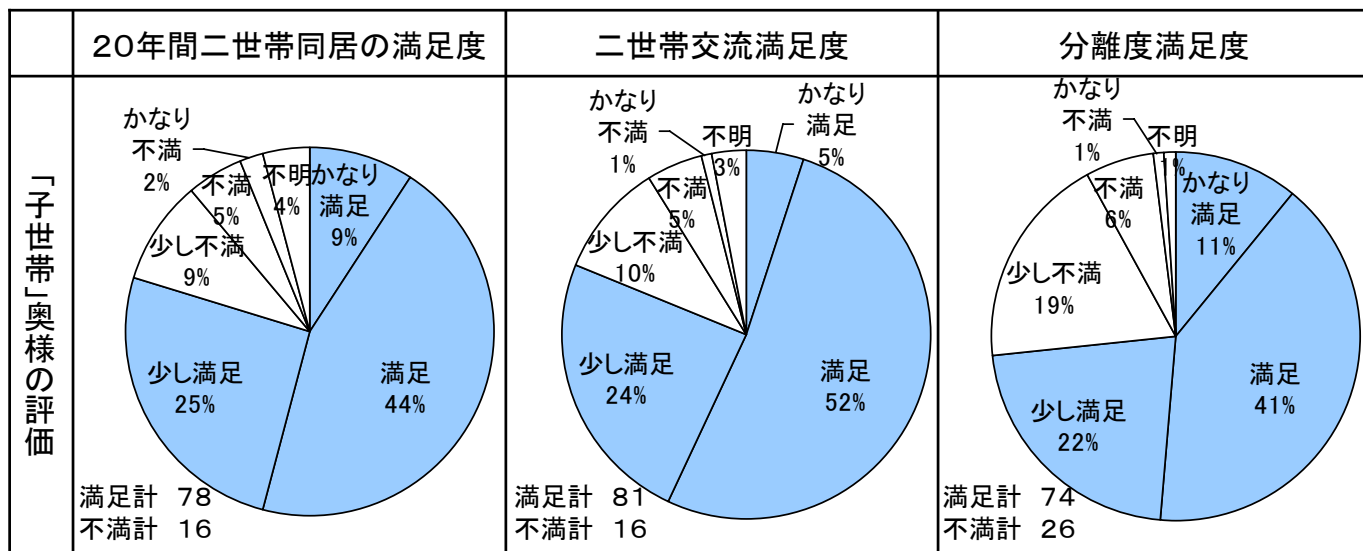
第三章

20年間二世帯同居への喜び・反省 (満足・不満)



押し並べて「満足」ではあるが積極的に評価できない何かもある

- 二世帯同居への満足は子世帯、親世帯とも「同居の総合満足度」「二世帯交流満足度」「分離満足度」としてどの要素も7割以上の満足が評価されている。
- 全般に親世帯の満足度は高く、同居そのものは9割が満足。
- 子世帯では「少し満足」まで入れた「満足」は同居自体、交流度とも約8割の満足が示されている。しかし、「かなり満足」との積極的な満足評価は、同居そのものの総合評価で9%、二世帯交流満足度では5%となっている。
- また子世帯では二世帯の「分離度」への不満が1/4以上の世帯で見られている。



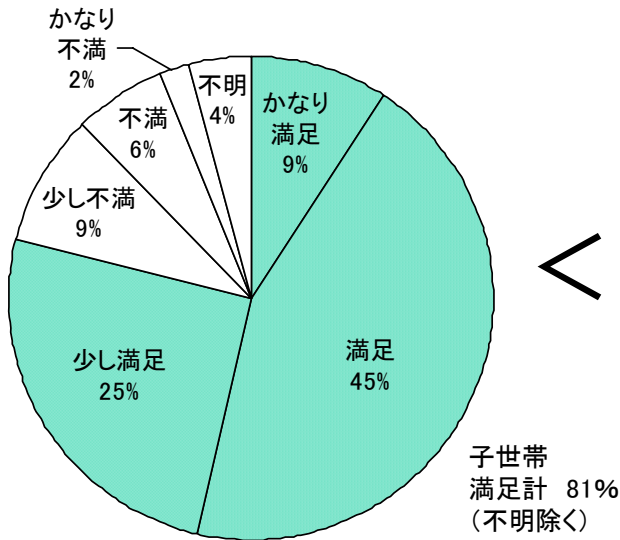


2. 二世帯同居の総合満足度

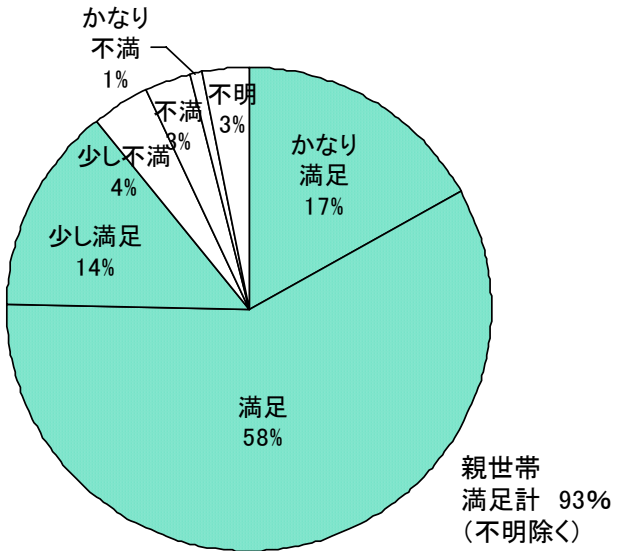
親世帯は満足。子世帯も満足ではあるが、積極的評価でもない。

- 子世帯の不満は18%であり、どちらかといえば満足世帯が多く、8割近い満足。ただし「かなり満足」との積極的評価は9%と高くはない。
- 住い方、ユーザー属性で見ると大きな差ではないが、差がみられる。年代ではやや子世帯40代以下の若い世帯が満足が高く、住宅の分離度では台所・浴室・玄関独立で、家の中で行き来可のユーザーで積極評価が高い。

子世帯奥様の満足



親世帯奥様の満足



子世帯

		全体	Q6. [総合] 「二世帯同居生活」満足度							小計
			かなり満足	満足	少し満足	少し不満	不満	かなり不満	不明	1+2
子世帯全数		307	9.1	44.3	25.1	9.4	5.5	2.3	4.2	53.4
同居状況	同居継続者	209	10.5	43.1	25.4	9.6	4.3	2.4	4.8	53.6
	F4-2 現在非同居者	98	6.1	46.9	24.5	9.2	8.2	2.0	3.1	53.1
現時点の親子関係(F4-2)	息子夫婦同居	157	10.8	41.4	22.9	10.2	5.1	3.2	6.4	52.2
	娘夫婦同居	52	9.6	48.1	32.7	7.7	1.9	0.0	0.0	57.7
同居継続者	現時点	70	(14.3)	(45.7)	21.4	7.1	2.9	2.9	5.7	60.0
	二世帯同居生活満足度(Q6)	106	9.4	44.3	25.5	11.3	3.8	1.9	3.8	53.8
	二世帯同居生活満足度(Q6)	20	10.0	40.0	25.0	10.0	5.0	5.0	5.0	50.0
同居継続者	同居当初の二世帯分離状態(Q20)	51	(11.8)	(49.0)	25.5	2.0	2.0	2.0	7.8	60.8
	台・浴・玄は各世帯1つ、行き来可	52	(19.2)	32.7	28.8	9.6	1.9	1.9	5.8	51.9
	台・浴は各世帯に1つ、玄関は共用	24	12.5	41.7	33.3	4.2	4.2	0.0	4.2	54.2
	台は各世帯に1つ、浴・玄は共用	58	5.2	43.1	22.4	17.2	6.9	3.4	1.7	48.3
	台・浴・玄は共用、子世帯	15	0.0	33.3	26.7	13.3	13.3	6.7	6.7	33.3
二世帯同居生活満足度(Q6)	かなり満足+満足	112	19.6	80.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	少し満足	53	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	不満者計	34	0.0	0.0	0.0	58.8	26.5	14.7	0.0	0.0
親世帯全数		212	16.5	59.0	14.2	4.7	1.9	0.9	2.8	78.5



3. 二世帯同居のよかった点

20年間、二世帯のよかった点は、

緊急事態、留守の時の安心感

子供への良い影響

冠婚葬祭

3つに集約される 親世帯でも同様の傾向にある

- 中でも「自分や家族の急病の時など心強い」「安心して旅行や外出ができる」といった安心要素が二世帯同居のよかった点として高く評価されている。
- その他「子供の世話／成長に役立つ」「生活の知恵」「家庭的雰囲気／精神的充足」「サポート」など多岐の要素があげられている。
- 親世帯では「安心」と「家庭的雰囲気」が高くあげられている。
- 二世帯のメリットは二世帯同居当初の方がよりメリットが高く、「子供」「生活の知恵」などは20年たつとすでに足りて評価としては落ちてくる。

		同居当初		現在	
		子世帯	親世帯	子世帯	親世帯
安心	自分や家族の急病の時など心強い	70	84	61	75
	安心して旅行や外出ができる	66	75	54	59
サポート	家事に協力してもらえる	25	36	16	34
	自分が仕事を続ける上で不安がない	23	13	17	6
関係	家族的な雰囲気で団らんを楽しめる	30	43	24	31
	精神的な充足や張りあいがある	12	31	13	27
子供	子供の世話をしてもらえる(親／孫の世話できる)	35	31	16	17
	子供の精神的な成長に役立つ(親／孫の成長に協力できる)	45	34	35	30
学習	伝統的な文化や習慣、生活の知恵を吸収できる(親／新しいもの吸収)	28	26	14	22
	冠婚葬祭などの対応がわかる	36	(-)	33	(-)
経済	家計を助け合え、経済的に楽になる	21	17	18	13
快適	快適な住まいや環境が得られる	25	22	18	17
		416	443	319	367

OA(子世帯の思い)

- ・親子助け合う／世話をしあうことで喜びを感じる(ありがとうという言葉)
- ・親への精神的な支え(病気、介護、死亡...)
- ・子供(孫)への情緒的影響(シツケ、コミュニケーション)
- ・身近で世話をすることのメリット・便利さ
- ・一緒に住むことで家族という信頼感

OA(親世帯)

- ・孫の世話・顔／成長をみることの喜び
- ・息子が近くにいることの安心・心強さ
- ・病気の時の精神的支え
- ・一緒にいることの張り合い



- 親子関係としては「娘夫婦同居」の方が圧倒的に良かった点の評価が高い。気軽さ、甘えられるもあって、「安心」「家事協力」「子供」「勤め(子世帯・妻)に出る」「家計」までもメリットを高くあげている。
- 年代別には若い世帯の方がメリットを高くあげている。

同居当初

子世帯

		Q7. 同居当初・二世帯同居良い点												
		全体	自分や家族の急病の時など心強い	安心して旅行や外出ができる	家事に協力してもらえる	家族的な雰囲気を楽しめる	精神的な充足や張りあいがある	子供の世話をしてもらえる	子供の精神的成長に役立つ	自分が仕事を続ける上で不安がない	伝統的な文化や習慣、生活の知恵を	冠婚葬祭などの対応がわかる	家計を助け合え、経済的に楽になる	快適な住まいや環境が得られる
子世帯全数		307	69.7	66.1	25.1	30.3	12.1	34.5	45.0	22.8	28.3	36.2	20.8	25.4
同居状況	同居継続者	209	71.3	68.4	28.2	28.7	13.4	39.2	45.9	25.4	28.7	38.3	23.4	26.3
F4-2	現在非同居者	98	66.3	61.2	18.4	33.7	9.2	24.5	42.9	17.3	27.6	31.6	15.3	23.5
同居継続者	現時点の親子関係(F4-2)	157	65.0	64.3	19.7	27.4	9.6	31.8	41.4	17.8	27.4	37.6	18.5	25.5
	娘夫婦同居	52	90.4	80.8	53.8	32.7	25.0	61.5	59.6	48.1	32.7	40.4	38.5	28.8
同居継続者	現時点の子世帯妻の年代(Q38-8)	70	81.4	72.9	27.1	31.4	14.3	45.7	52.9	21.4	34.3	47.1	20.0	25.7
	40代以下	106	70.8	73.6	32.1	32.1	15.1	41.5	47.2	28.3	30.2	37.7	28.3	26.4
	50代	20	45.0	45.0	10.0	15.0	10.0	15.0	20.0	20.0	15.0	25.0	15.0	25.0
	60代以上	51	72.5	70.6	23.5	23.5	9.8	35.3	37.3	15.7	29.4	43.1	11.8	21.6
	同居当初の二世帯分離状態(Q20)	52	67.3	69.2	25.0	26.9	23.1	28.8	48.1	17.3	28.8	44.2	19.2	38.5
	台・浴・玄は各世帯1つ、行き来可	24	79.2	58.3	25.0	25.0	8.3	41.7	41.7	20.8	29.2	25.0	16.7	33.3
	台・浴は各世帯に1つ、玄関は共用	58	69.0	72.4	27.6	27.6	10.3	43.1	44.8	36.2	24.1	32.8	27.6	22.4
台・浴・玄は共用、子世帯	15	80.0	66.7	53.3	53.3	13.3	53.3	60.0	46.7	40.0	53.3	60.0	0.0	
二世帯同居生活満足度(Q6)	かなり満足+満足	112	79.5	74.1	33.0	32.1	19.6	44.6	55.4	26.8	34.8	42.0	25.9	32.1
	少し満足	53	71.7	75.5	24.5	28.3	9.4	34.0	35.8	28.3	22.6	32.1	24.5	24.5
	不満足者計	34	55.9	47.1	23.5	23.5	2.9	38.2	41.2	20.6	23.5	41.2	17.6	17.6

現在

子世帯

		Q8. 現在/二終・二世帯同居良い点												
		全体	自分や家族の急病の時など心強い	安心して旅行や外出ができる	家事に協力してもらえる	家族的な雰囲気を楽しめる	精神的な充足や張りあいがある	子供の世話をしてもらえる	子供の精神的成長に役立つ	自分が仕事を続ける上で不安がない	伝統的な文化や習慣、生活の知恵を	冠婚葬祭などの対応がわかる	家計を助け合え、経済的に楽になる	快適な住まいや環境が得られる
子世帯全数		307	61.2	54.1	16.3	24.4	13.4	16.3	34.5	16.9	24.4	32.6	18.2	18.2
同居状況	同居継続者	209	61.7	56.5	19.6	24.4	15.8	18.2	36.4	20.6	26.8	35.4	22.0	18.7
F4-2	現在非同居者	98	60.2	49.0	9.2	24.5	8.2	12.2	30.6	9.2	19.4	26.5	10.2	17.3
同居継続者	現時点の親子関係(F4-2)	157	55.4	53.5	14.0	22.3	13.4	14.0	30.6	14.0	24.8	36.3	18.5	18.5
	娘夫婦同居	52	80.8	65.4	36.5	30.8	23.1	30.8	53.8	40.4	32.7	32.7	32.7	19.2
同居継続者	現時点の子世帯妻の年代(Q38-8)	70	67.1	64.3	25.7	28.6	17.1	24.3	50.0	20.0	35.7	52.9	24.3	20.0
	40代以下	106	62.3	57.5	18.9	25.5	17.9	15.1	32.1	19.8	25.5	28.3	24.5	17.0
	50代	20	35.0	25.0	5.0	10.0	10.0	10.0	10.0	15.0	10.0	20.0	5.0	30.0
	60代以上	51	58.8	56.9	13.7	19.6	13.7	15.7	29.4	15.7	25.5	31.4	11.8	15.7
	同居当初の二世帯分離状態(Q20)	52	59.6	59.6	19.2	23.1	21.2	17.3	36.5	15.4	36.5	44.2	17.3	23.1
	台・浴・玄は各世帯1つ、行き来可	24	70.8	54.2	20.8	20.8	12.5	29.2	41.7	16.7	20.8	29.2	29.2	20.8
	台・浴は各世帯に1つ、玄関は共用	58	58.6	55.2	15.5	22.4	13.8	13.8	34.5	24.1	20.7	29.3	20.7	19.0
台・浴・玄は共用、子世帯	15	73.3	53.3	46.7	46.7	20.0	20.0	46.7	33.3	26.7	53.3	53.3	0.0	
二世帯同居生活満足度(Q6)	かなり満足+満足	112	67.9	61.6	24.1	32.1	25.9	21.4	38.4	21.4	33.9	40.2	24.1	27.7
	少し満足	53	64.2	64.2	18.9	22.6	5.7	22.6	41.5	26.4	26.4	34.0	24.5	13.2
	不満足者計	34	50.0	35.3	8.8	8.8	2.9	5.9	29.4	11.8	8.8	29.4	14.7	2.9



できた二世帯同居ユーザーといえど、やはり同じ屋根の下に暮らす限り不満は必ずあると心得た方がよい。

- 子世帯の不満が圧倒的に高くなっている。
- 同居当初「日常的気遣いが増える」「生活のリズムが違う」「友人や自分の親戚との交流に気を使う」「生活の干渉を受けやすい」など他にもいろいろな不満があげられている。
- 時間と共に減る「気遣い・干渉」「友人・親戚の交流」もあるが、「親世帯の世話」など負担の増えるものもある。

手法		同居当初		現在	
		(子世帯)	(親世帯)	(子世帯)	(親世帯)
手法	家事のやり方合わない	15	13	9	8
	食事好みなどが違う	22	20	14	15
価値観	生活全般に対する価値観が違う	26	26	22	21
	言葉遣いや礼儀作法などの考え方が違う	6	12	5	7
	子供の教育やしつけの考え方が違う	24	17	10	7
	生活時間やリズムが違う	38	35	30	26
	家事の負担が重くなる	11	5	13	4
負担	親世帯の世話で負担が重くなる	11	9 (孫の)	25	4
	経済的な負担が重くなる	7	5	7	3
干渉・未練	親子間に遠慮がなくなり甘えが生じる	7	9	6	4
	日常的に気遣いが増える	53	24	36	13
	世帯間のプライバシーが確保できない	24	9	15	5
	生活の干渉を受けやすい	33	7	21	4
自由時間	外出やレジャーが自由に楽しみにくい	21	1	23	1
	自分一人の時間が持ちにくい	17	4	14	2
他人問題	親戚や近所付き合いが多くなる	17	2	12	1
	友人や自分の親戚との交流に気をつかう	37	8	22	4
	相手世帯の来客に気を遣う	27	11	19	6
	ご主人(妻)と親との板挟みなる	17	8	10	4

(子と配偶者の間の)

計 413 > 225 313 > 139

(>)

(>)

OA(子世帯)

- 勝手に合鍵で入られる
- 過干渉がうとうしい
- 面倒、世話をして、自分の幸せが犠牲
- 狭い二世帯の場合の部屋の確保(e.g.子供)

• 親の来客の対応でまよう／騒音

• 子供(孫)への甘さ、過干渉

• 一部共用型は途中半端(プライバシー・気遣い)

来客時の気遣い、けんか時の気遣い

• 騒音の不満は大きい

OA(親世帯)

• 一階の音の問題

• 大きくなった子供(孫)の音

☆不満は、互いに感じはじめると、自己増殖(インフレーション)をおこして、どんどんストレスになる

ちょっと本音／ユーザーの生の声子世帯奥様

20年前に家を作るときは、親の土地に建てることもあって、親の気に入るよう間取り等決めましたが、今母一人広い一階に生活をして、食事のしたくも掃除も(朝、昼は母が自分でしている)出来なくなって私がしています。その上、冬には一階は寒い寒いというので、二階に上がって私達が一階に下りると一階は私の城、庭も見えない二階は嫌だと言う。亡き父も主人の妹弟が泊まりに来るからと間取りを決めたようですがあまり泊まりに来ず、父が亡くなってからは全然きません。今になって親の室は少なくて良かったのではと思います。同居当初は自分の親と一緒で生活していこうと思っていましたが、嫌なこと、驚くこと・・・やっぱり一番近い他人なのだなあとつくづく感じます。



☆子世帯をみると

	当初		現在	
	子	親	子	親
不満特にない	14	24	23	31

全体として20年もたつと不満量は減少してくる

要因1. 不満の記憶が忘れられて、スコアが減ってくる

要因2. もしくは、20年もたつと、いろいろあったことが、逆になつかしくもなる

要因3. 当初の心配が住みはじめてみると杞憂にすぎなかった

〔 但し、家事の負担、親世帯の世話という
2点では不満がつのはずである 〕

☆親・子世帯を比較すると親の方の不満が小さい

(親の不満といえば価値観の違い、生活リズムの違い位である)

☆現在のふりかえっての不満は「4つ」に集約される。

〔 ・全体の生活価値観
・生活リズムの違い
・日常の気づかい
・相互けんせい(客、お出掛け) 〕



「子世帯」の20年間の分離度別満足点／不満点

満足点

- 建物の分離度の高い世帯は「生活的な知恵」の吸収にメリットを感じている。
- 共用部分の高い世帯では「子供の成長」へのメリットを感じている。

不満点

- 共用部分が高い世帯では「互いの気づかい」の量・質が高まってくる。

[満足点]	計	同居継続者の			
		完全分離	準	玄のみ	玄・浴共用
自分や家族の急病の時など心強い	62	59	60	71	59
安心して旅行や外出ができる	57	57	60	54	55
家事に協力してもらえる	20	14	19	21	16
家族的な雰囲気や団らんを楽しめる	24	20	23	21	22
精神的な充足や張りあいがある	16	14	21	13	14
子供の世話をしてもらえる	18	16	17	29	14
子供の精神的な成長に役立つ	36	29	37	42	35
自分が仕事を続ける上で不安がない	21	16	15	17	24
伝統的な文化や習慣、生活の知恵を吸収できる	27	26	37	21	21
冠婚葬祭などの対応がわかる	35	31	44	29	29
家計を助け合え、経済的に楽になる	22	12	17	29	21
快適な住まいや環境が得られる	19	10	23	21	19
		310	373	368	329

[不満点]	計	同居継続者の			
		完全分離	準	玄のみ	玄・浴共用
家事のやり方が合わない	10	10	10	13	9
食事好みなど違う	13	16	12	13	14
生活全般に対する価値観が違う	23	20	17	29	29
言葉遣いや礼儀作法などの考え方が違う	6	6	2	4	9
子供の教育やしつけの考え方が違う	11	10	8	13	12
生活時間やリズムが違う	31	26	23	21	45
家事の負担が重くなる	12	12	6	8	16
親世帯の世話で負担が重くなる	23	26	14	17	33
友人や自分の親戚との交流に気がつかう	23	16	10	38	38
親子間に遠慮がなくなり甘えが生じる	7	0	8	13	12
経済的な負担が重くなる	5	2	2	0	12
日常的に気遣いが増える	34	35	37	42	33
世帯間のプライバシーが確保できない	15	8	10	17	28
生活の干渉を受けやすい	23	20	17	33	31
相手世帯の来客に気を遣う	18	14	19	25	24
外出やレジャーが自由に楽しみにくい	24	26	19	13	28
自分一人の時間が持ちにくい	13	14	8	8	17
親戚や近所付き合いが多くなる	11	8	8	0	24
ご主人(妻)と親との板挟みなる	11	8	12	17	9
		277	242	324	423

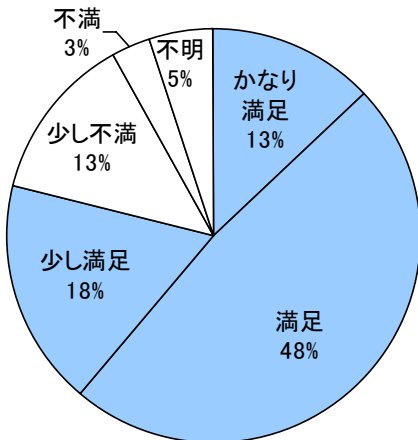


- 20年を越える家族を支えるヘーベルハウス。
二世帯同居型の家としてのヘーベルハウスへの顧客満足度は高い。
- 二世帯同居の「総合満足度」と建物の満足度の相関は極めて高い。
「総合満足度の高い世帯」は「建物の満足度の高い世帯」といえる。

- 親子関係(息子／娘)や世代と建物満足度の違いはみられていない。
- 建坪40坪未満の世帯では「満足」レベルの評価がやや小さくなっている。
- 分離度では「台所」「浴室」が分離している世帯での満足度が高い。
- 二世帯同居の満足は建物の満足という物理的満足、安心によって大きく支えられるという一面は大きな要因としてある。

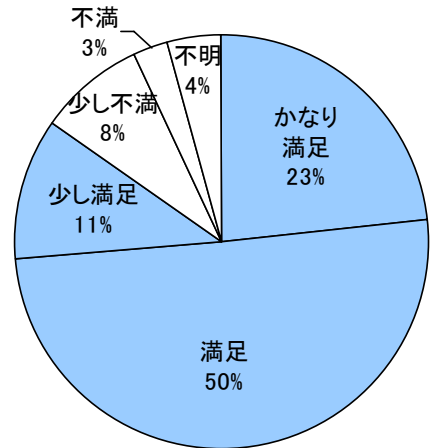
20年住んだ「ヘーベルハウス」の満足度

子世帯奥様評価



子世帯の満足 83% (不明除く)

親世帯奥様評価



親世帯の満足 88% (不明除く)

子世帯

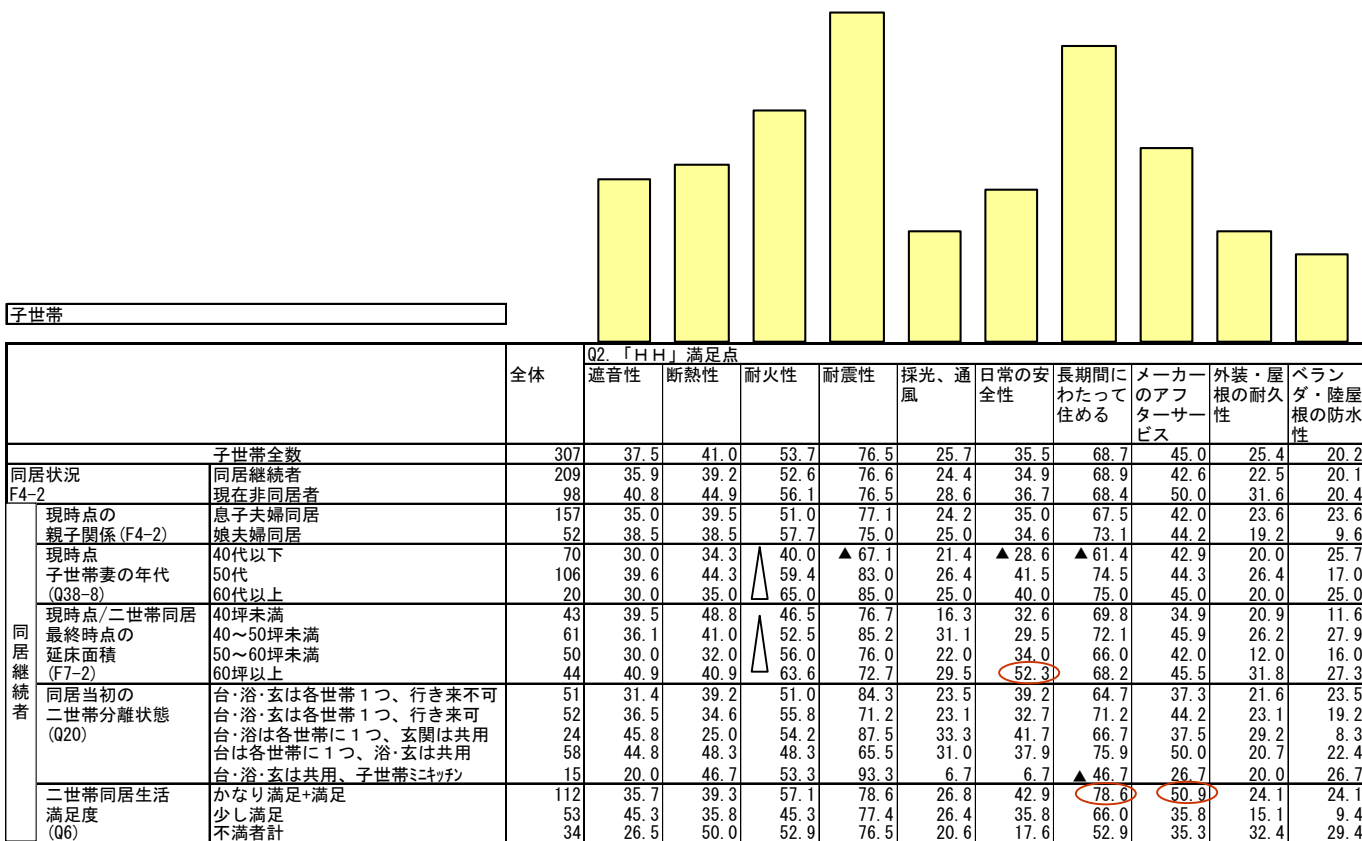
	全体	Q1. [総合]「HH」への満足度							小計 1+2+3		
		かなり満足	満足	少し満足	少し不満	不満	かなり不満	不明			
子世帯全数	307	12.7	47.9	17.9	13.4	2.9	0.0	5.2	78.5		
同居状況 F4-2	同居継続者	209	12.9	45.5	19.1	14.4	3.3	0.0	4.8	77.5	
	現在非同居者	98	12.2	53.1	15.3	11.2	2.0	0.0	6.1	80.6	
同居継続者	現時点の親子関係(F4-2)	157	11.5	45.9	19.1	15.3	4.5	0.0	3.8	76.4	
	息子夫婦同居	52	17.3	44.2	19.2	11.5	0.0	0.0	7.7	80.8	
	現時点の子世帯妻の年代(Q38-8)	70	12.9	45.7	18.6	14.3	4.3	0.0	4.3	77.1	
	40代以下	106	14.2	48.1	18.9	13.2	1.9	0.0	3.8	81.1	
	50代	20	15.0	45.0	15.0	15.0	5.0	0.0	5.0	75.0	
	60代以上	43	14.0	32.6	14.0	25.6	7.0	0.0	7.0	60.5	
	最終時点の延べ床面積(F7-2)	61	11.5	62.3	11.5	11.5	0.0	0.0	3.3	85.2	
	40坪未満	50	12.0	46.0	20.0	14.0	6.0	0.0	2.0	78.0	
	40~50坪未満	44	15.9	36.4	36.4	6.8	2.3	0.0	2.3	88.6	
	50~60坪未満	51	17.6	37.3	25.5	11.8	2.0	0.0	5.9	80.4	
	60坪以上	52	15.4	46.2	19.2	15.4	0.0	0.0	3.8	80.8	
	同居当初の二世帯分離状態(Q20)	台・浴・玄は各世帯1つ、行き来不可	24	16.7	45.8	20.8	8.3	0.0	0.0	8.3	83.3
		台・浴は各世帯に1つ、玄関は共用	58	8.6	51.7	13.8	15.5	6.9	0.0	3.4	74.1
		台・浴・玄は共用、子世帯キッチン	15	6.7	40.0	13.3	20.0	13.3	0.0	6.7	60.0
二世帯同居生活満足度(Q6)	かなり満足+満足	112	21.4	58.9	5.4	10.7	0.0	0.0	3.6	85.7	
	少し満足	53	3.8	34.0	45.3	9.4	0.0	0.0	7.5	83.0	
	不満者計	34	2.9	23.5	23.5	29.4	20.6	0.0	0.0	50.0	

二世帯同居型住宅(ハード／ヘーベルハウス)の良かった点

変らぬ「建物の強さ」、変らぬメーカーの「信頼・アフターサービス」、
外からの「災害に対する安心」、建物の「基本性能の質」が長い年月を過ごす二世帯同居型住宅評価の真骨頂。

変わらず家族を支える大きな安心が二世帯同居家族に満足を与えている。

- 建物の良かった点は「耐震性」「耐火性」という予期せぬアクシデントへの安心がトップに評価される。だから「長期にわたって住める」ことへの評価につながっている。
- そしてそれを心理的にもシステムとしても安心として支える「アフターサービス」、日常的環境を支える「断熱性」「遮断性」が二世帯の満足をつくり出している。
- 年代でみると若干、若い世帯で「日常的安全性」「耐火性」などへの評価が上の世代より低くなっている。
- 二世帯同居に満足の高い層では「長期にわたって住める」「メーカーのアフターサービス」などへの評価がより高くなっている。

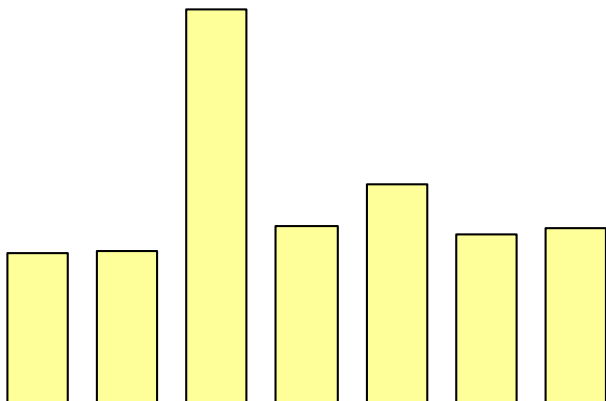


(20%以上)

二世帯同居型住宅(ハード／ヘーベルハウス)の不満点

長い間に建物は変わらずとも、家族のかたちは変わっていく。
 変わらぬ建物の良さを活かして、変わる家族のかたちを受けとめるリニューアルプログラムを。

- 建物の不満点としては「間取(使い勝手や収納)」への不満が高い。
- 二世帯同居に不満な世帯では建物への不満としてこの「間取(使い勝手や収納)」への不満が極端に高くなっている。
 二世帯同居不満層では他にも「増改築しやすい構造」「外装・屋根の耐久性」「遮音性」など建物への不満が高くなっている。
- 「間取(使い勝手や収納)」の不満は「息子夫婦同居」者や40坪未満建坪者で高く、生活の分離や物理的制約と連動していると思われる。



子世帯

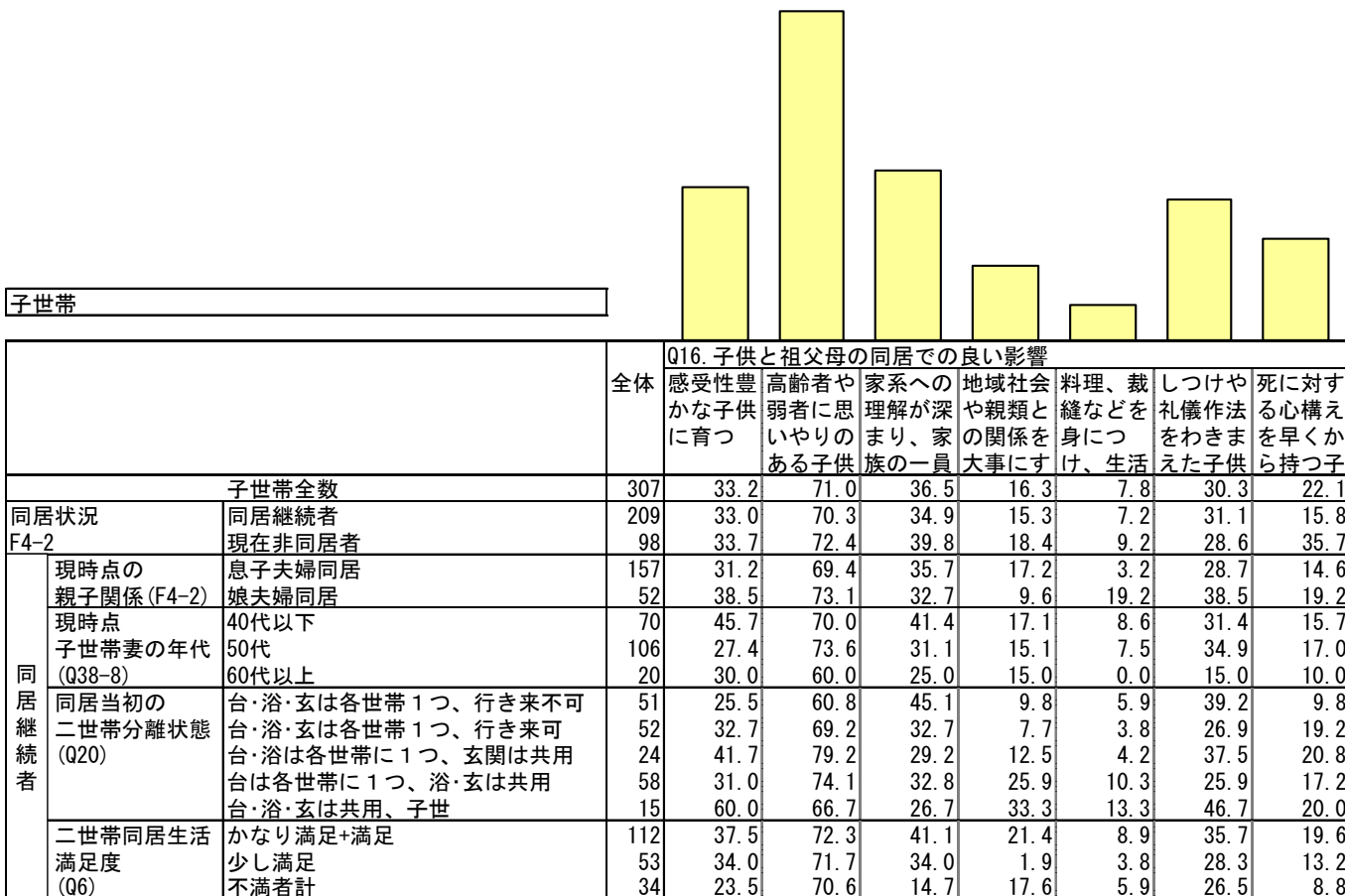
		全体	Q3. 「HH」不満点							
			遮音性	断熱性	間取り (使い勝手や収納等)	インテリア	増改築しやすい構造	外装・屋根の耐久性	ベランダ・陸屋根の防水性	
子世帯全数		307	17.3	17.6	45.6	20.5	25.4	19.5	20.2	
同居状況 F4-2	同居継続者	209	18.2	16.7	47.8	19.6	24.4	19.6	20.1	
	現在非同居者	98	15.3	19.4	40.8	22.4	27.6	19.4	20.4	
同居継続者	現時点の親子関係(F4-2)	息子夫婦同居	157	17.2	15.9	51.6	19.1	26.1	19.1	19.7
		娘夫婦同居	52	21.2	19.2	36.5	21.2	19.2	21.2	21.2
	現時点子世帯妻の年代(Q38-8)	40代以下	70	18.6	18.6	50.0	14.3	21.4	15.7	17.1
		50代	106	19.8	15.1	48.1	24.5	29.2	22.6	22.6
		60代以上	20	10.0	15.0	45.0	25.0	10.0	15.0	15.0
	現時点/二世帯同居	40坪未満	43	25.6	23.3	60.5	14.0	20.9	14.0	18.6
	最終時点の延床面積(F7-2)	40~50坪未満	61	13.1	11.5	44.3	18.0	27.9	16.4	13.1
		50~60坪未満	50	18.0	22.0	48.0	22.0	24.0	24.0	18.0
		60坪以上	44	18.2	11.4	43.2	25.0	25.0	25.0	34.1
	同居当初の二世帯分離状態(Q20)	台・浴・玄は各世帯1つ、行き来不可	51	21.6	11.8	49.0	23.5	23.5	13.7	15.7
		台・浴・玄は各世帯1つ、行き来可	52	23.1	19.2	48.1	21.2	19.2	21.2	19.2
		台・浴は各世帯に1つ、玄関は共用	24	8.3	16.7	41.7	20.8	25.0	12.5	20.8
		台は各世帯に1つ、浴・玄は共用	58	13.8	20.7	44.8	12.1	24.1	24.1	20.7
		台・浴・玄は共用、子世帯キッチン	15	26.7	6.7	53.3	26.7	33.3	33.3	26.7
二世帯同居生活満足度(Q6)	かなり満足+満足	112	16.1	19.6	41.1	17.9	17.9	17.0	13.4	
	少し満足	53	15.1	11.3	49.1	22.6	28.3	20.8	28.3	
	不満者計	34	29.4	17.6	70.6	23.5	44.1	32.4	32.4	

子供・祖父母同居による良い影響

「思いやり」など情緒効果と「しつけ／礼儀」など形態効果があると評価されている。

		(子世帯)	(親世帯)
心	感受性豊かな子供に育つ	33	34
	高齢者や弱者に思いやりのある子供に育つ	71	59
	家系への理解が深まり、家族の一員としての意識が高まる	37	34
	地域社会や親類との関係を大事にする子供に育つ	16	18
形	料理、裁縫などを身につけ、生活能力のある子供に育つ	8	10
	しつけや礼儀をわきまえた子供に育つ	30	26
その他	死に対する心構えを早くから持つ子供に育つ	22	12
	その他(具体的:)	3	4
特になし		7	15
子供はいないので答えられない		6	7

- 年代別には小さい子供がいる方が良い影響があるとされる。
- 共用部分の多い住宅のユーザーほど子供教育への影響がよいとされる。



子世帯

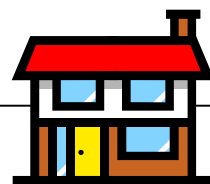
	全体	Q16. 子供と祖父母の同居での良い影響							
		感受性豊かな子供に育つ	高齢者や弱者に思いやりのある子供	家系への理解が深まり、家族の一員	地域社会や親類との関係を大事にする	料理、裁縫などを身につけ、生活	しつけや礼儀作法をわきまえた子供	死に対する心構えを早くから持つ子	
子世帯全数	307	33.2	71.0	36.5	16.3	7.8	30.3	22.1	
同居状況 F4-2									
同居継続者	209	33.0	70.3	34.9	15.3	7.2	31.1	15.8	
現在非同居者	98	33.7	72.4	39.8	18.4	9.2	28.6	35.7	
同居継続者	現時点の親子関係(F4-2)								
	息子夫婦同居	157	31.2	69.4	35.7	17.2	3.2	28.7	14.6
	娘夫婦同居	52	38.5	73.1	32.7	9.6	19.2	38.5	19.2
	現時点の子世帯妻の年代(Q38-8)								
	40代以下	70	45.7	70.0	41.4	17.1	8.6	31.4	15.7
	50代	106	27.4	73.6	31.1	15.1	7.5	34.9	17.0
	60代以上	20	30.0	60.0	25.0	15.0	0.0	15.0	10.0
	同居当初の二世帯分離状態(Q20)								
	台・浴・玄は各世帯1つ、行き来不可	51	25.5	60.8	45.1	9.8	5.9	39.2	9.8
	台・浴・玄は各世帯1つ、行き来可	52	32.7	69.2	32.7	7.7	3.8	26.9	19.2
台・浴は各世帯に1つ、玄関は共用	24	41.7	79.2	29.2	12.5	4.2	37.5	20.8	
台は各世帯に1つ、浴・玄は共用	58	31.0	74.1	32.8	25.9	10.3	25.9	17.2	
台・浴・玄は共用、子世帯	15	60.0	66.7	26.7	33.3	13.3	46.7	20.0	
二世帯同居生活満足度(Q6)									
かなり満足+満足	112	37.5	72.3	41.1	21.4	8.9	35.7	19.6	
少し満足	53	34.0	71.7	34.0	1.9	3.8	28.3	13.2	
不満者計	34	23.5	70.6	14.7	17.6	5.9	26.5	8.8	



第四章

20年間二世帯生活への
サクセスケース(上手な人)
／フェイルアケース(失敗した人)

1. 二世帯同居の不満はどんなところに出てくるか



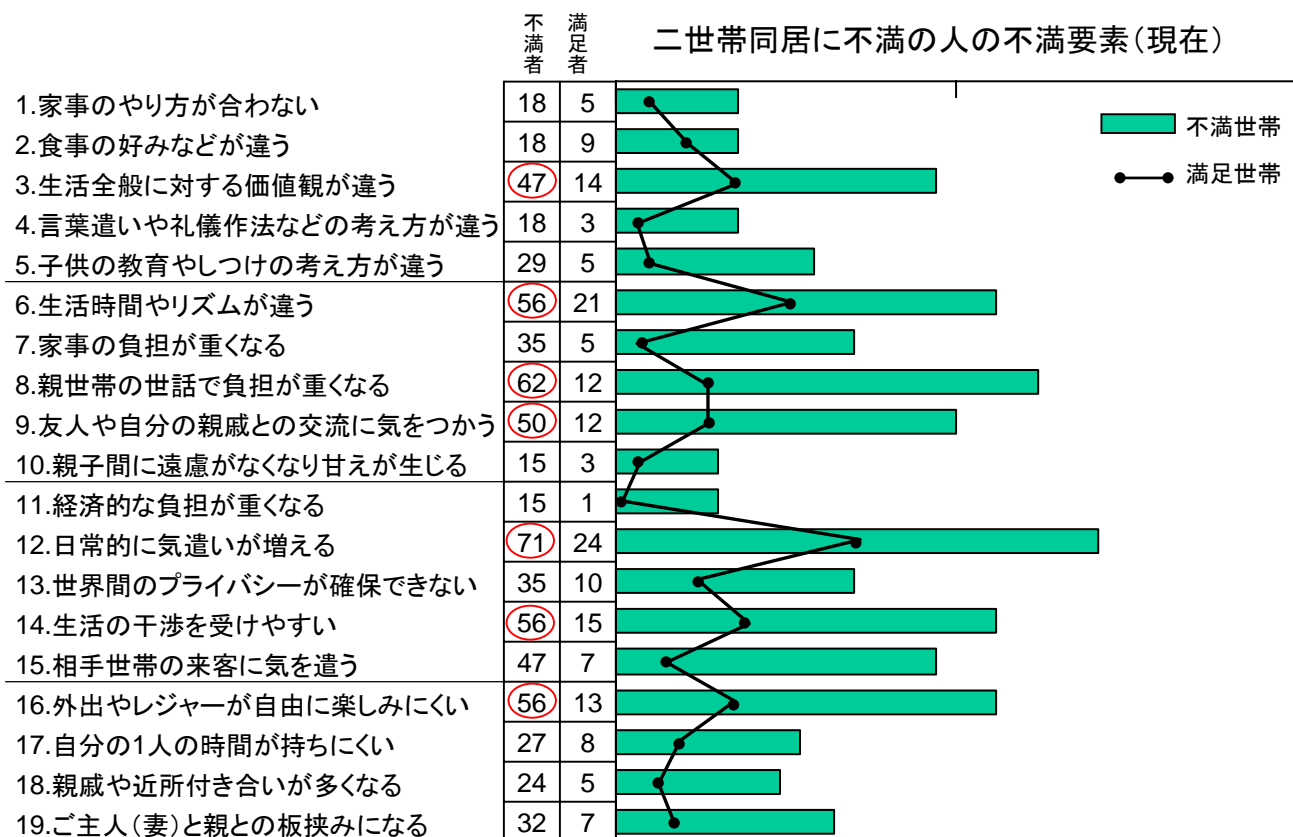
不満者には色々の要素で不満が噴出してくる

- 二世帯同居に不満としている世帯の不満要素で特に高いものは以下のとおり。

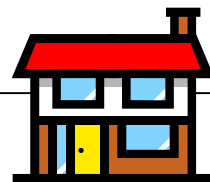
1. 日常的に気遣いが増える
2. 親世帯の世話で負担が重くなる
3. 生活時間やリズムが違う
3. 生活の干渉を受けやすい
3. 外出やレジャーが自由に楽しみにくい
6. 友人や自分の親戚との交流に気がつかう
7. 生活全般に対する価値観が違う
8. 家事の負担が重くなる
8. 世帯間のプライバシーが確保できない
10. ご主人(妻)と親との板挟みになる



反対に言えば、以上の事柄を上手く流していける世帯では二世帯同居の生活の満足度を高くやっ
ていける世帯



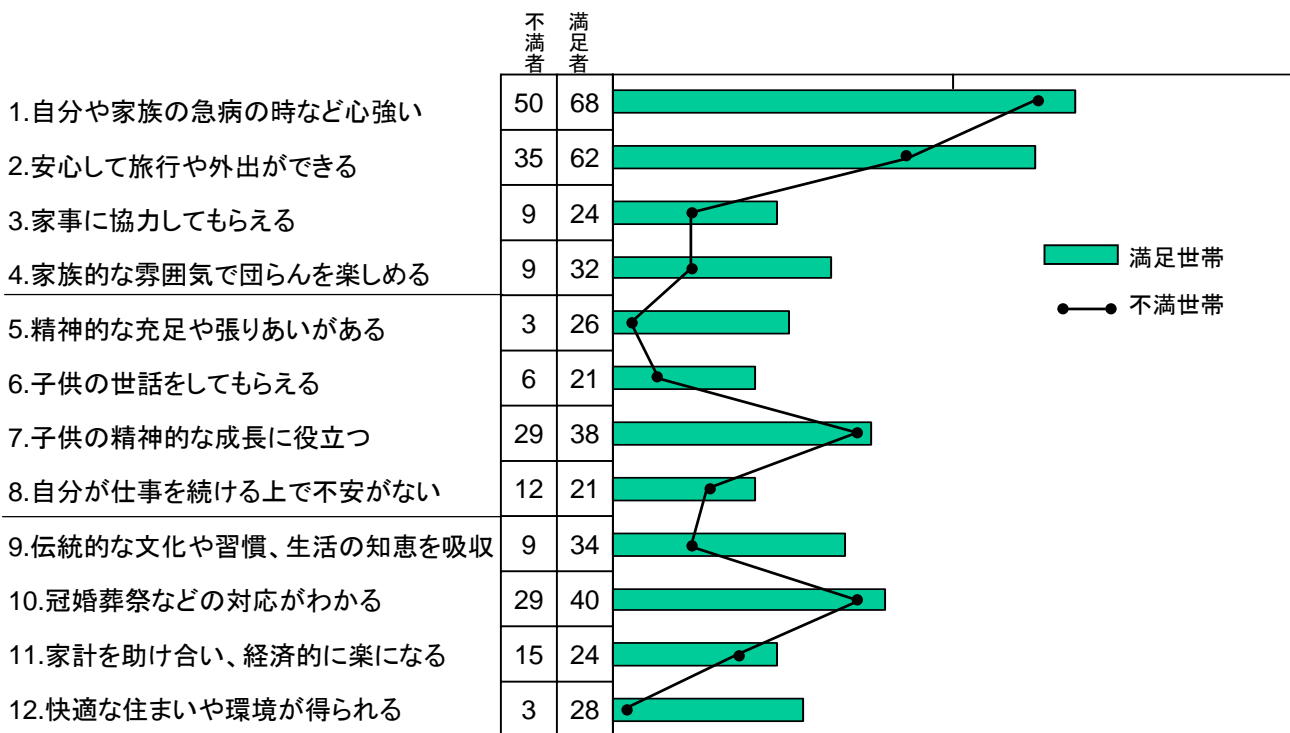
2. 二世帯同居に満足の高い世帯の「二世帯同居でよい点」



二世帯同居の満足世帯は「家族の急病の時」「安心して外出や旅行」を筆頭に多くのメリットがあげられている。

- 二世帯同居に満足の高い世帯では「よい点」として以下の項目でよりメリットを享受できている。
 - 安心して旅行や外出ができる
 - 伝統的な文化や習慣、生活の知恵を吸収できる
 - 家族的な雰囲気や団らんを楽しめる
 - 快適な住まいや環境が得られる
 - 精神的な充足や張り合いがある
- 二世帯同居に不満な世帯でも二世帯のメリットとして「自分や家族の急病の時など心強い」「冠婚葬祭などの対応がわかる」「子供の精神的成長に役立つ」はあげられている。
- どうせ二世帯同居を続けているなら、満足の高い生活をおくれた方がハッピーであるし、精神的な負担・不満などを感じず過ごせる世帯もあることで解決策の模索は価値あることと云える。

二世帯同居に満足な世帯の良かった点（現在）



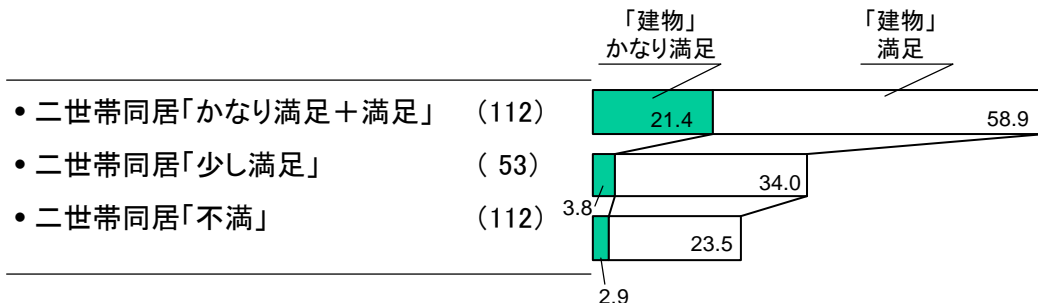
3. 二世帯同居の満足度を分ける住い方属性



1. **親子関係** 娘夫婦同居の方が満足度は高い。
2. **年代** 若い世帯の方が若干満足度は高い。
3. **建坪** 建坪の大きい世帯ほど満足度が高い傾向
4. **台・浴・玄関分離**
 - 「台所・浴室・玄関が共用で子世帯にミニキッチン」世帯では満足度が低い。
 - 積極的に二世帯同居に満足と答えている世帯は、「台所・浴室・玄関の分離」世帯となっている。

		全体	<div style="display: flex; justify-content: space-around; width: 100%;"> 「かなり満足 満足 少し満足 </div>			
子世帯全数		307	9.1	44.3	25.1	
同居継続者	現時点の親子関係 (F4-2)	息子夫婦同居	10.8	41.4	22.9	
		娘夫婦同居	52	9.6	48.1	32.7
	現時点の子世帯妻の年代 (Q38-8)	40代以下	70	14.3	45.7	21.4
		50代	106	9.4	44.3	25.5
		60代以上	20	10.0	40.0	25.0
	現時点/二世帯同居最終時点の延床面積 (F7-2)	40坪未満	43	9.3	44.2	
		40~50坪未満	61	8.2	42.6	
		50~60坪未満	50	14.0	48.0	
		60坪以上	44	11.4	36.4	
	同居当初の二世帯分離状態 (Q20)	台・浴・玄は各世帯1つ、行き来不可	51	11.8	49.0	25.5
	台・浴・玄は各世帯1つ、行き来可	52	19.2	32.7	28.8	
	台・浴は各世帯に1つ、玄関は共用	24	12.5	41.7	33.3	
	台は各世帯に1つ、浴・玄は共用	58	5.2	43.1	22.4	
	台・浴・玄は共用、子世	15	0.0	33.3	26.7	

4. 「建物」の満足と大きく関わる「二世帯同居」の満足



「二世帯同居の積極的満足評価世帯」は「建物」に対する満足度も積極的に高く他層に比べ大きな差となっている。

5. 二世帯同居のメリットを色々享受する「娘夫婦同居」

娘夫婦同居の場合、二世帯同居の色々な要素でそのメリットを高く期待しており、生活を続けても良い点を多く持っている

同居当初二世帯同居の良い点	娘夫婦同居	息子夫婦同居
1. 自分や家族の急病の時など心強い	90	> 81
2. 安心して旅行や外出ができる	81	> 64
3. 子供の世話をしてもらえる	62	> 32
4. 子供の精神的な成長に役立つ	60	> 41
5. 家事に協力してもらえる	54	> 20
6. 自分が仕事を続ける上で不安がない	48	> 18
7. 家計を助け合え、経済的に楽になる	39	> 19



第五章

二世帯同居生活のコツ(先人の教え)

基本的に優しく、おもいやりの方向性として二世帯型同居に向けた家族が、ヘーベリアン二世帯型同居のユーザーであるといえます。

しかし、一緒にいることが家族のかたち、あるいは寄り添い助け合い励ましあうのが家族の本来のかたち、であることも間違いない事実と言えます。

とても高い満足度をもたらす、二世帯型同居のヘーベリアンの先輩方に二世帯型同居のメリット、うまく生活をプランしていく“コツ”を教えていただきました。

ヘーベルハウスという長い家族生活を支え、満足度の高い容器を得て、条件や資質がもともとあるヘーベリアンですが、やはり人間どうし、“うまくやるコツ”はある様です。

1. 二世帯同居生活での「理想」のルール決め方

同居当初に話しあって決めていた方がよい「親子のルール」がある。そして、生活上の不満や問題ははっきり話しあい「解決策を考える」ことが、うまくやるコツ。

- 20年間二世帯同居を続けた家族の意見として、二世帯同居生活で理想のルールとして「同居当初に話し合って決めていた方がよいものがある」としている。
1番めは「費用負担に関するルール」である。
- 2番め、3番めとして「家事に関するルール」「共用空間の使い方に関するルール」があげられている。
- 4番めとしては「子供(孫)の教育に関するルール」、5番めとして「二世帯の交流に関するルール」である。
- 以上のルールの決め方は子世帯の方が親世帯より「同居当初に決めていた方がよい」と高く評価している。
- 又以上のことは20年を経て「理想のルールの決め方」として評価されたもので、この家族も実際とは20年前の同居当初にはしておけなかったルールである。

二世帯同居生活での理想のルールの決め方(Q34)

	子世帯		親世帯	
	同居当初に話し合っ て決めた方がよい	(なんとなく決まる ⊕ 感じがよい)	(なんとなく決まる ⊕ 感じがよい)	
a. 家事に関するルール ----->	61	(91)	46	(82)
b. 共用空間の使い方に関するルール ---->	59	(91)	42	(83)
c. 費用負担に関するルール ----->	79	(92)	62	(85)
d. 二世帯の交流の仕方に関するルール ->	44	(91)	29	(83)
e. 子供(孫)の教育に関するルール ----->	51	(83)	30	(70)

2. 二世帯同居生活での不満や問題点の理想の対処法

我慢をして時間解よりも「話し合い解決策を考えるのがよい」

- 特に「費用負担に関する不満や問題点」は我慢より「お互いにはっきり不満や問題点を話し解決策を考えるのがよい」と評価している。
- その他「家事に関する不満や問題点」「共用空間の使い方に関する不満や問題点」も同様に「話し解決策を考えるのがよい」とされている。

二世帯同居生活での不満や問題点の理想の対処法

	子世帯		
	お互いにはっきり不満や問題点を話し解決策を考えるのがよい	我慢をしていけば時間が解決してくれるので成行きにまかせるのがよい	不満や問題点が改善されない場合は別居も念頭においた方がよい
f. 家事に関する不満や問題点 ----- →	61	18	9
g. 共用空間の使い方に関する不満や問題点 -- →	59	21	8
h. 費用負担に関する不満や問題点 ----- →	79	7	7
i. 二世帯の交流の仕方に関する不満や問題点 →	44	28	10
j. 子供(孫)の教育に関する不満や問題点 ---- →	51	20	11

その場、即決派(子)

親世帯		
お互いにはっきり不満や問題点を話し解決策を考えるのがよい	我慢をしていけば時間が解決してくれるので成行きにまかせるのがよい	不満や問題点が改善されない場合は別居も念頭においた方がよい
53	26	5
50	34	3
64	17	4
43	40	3
39	35	5

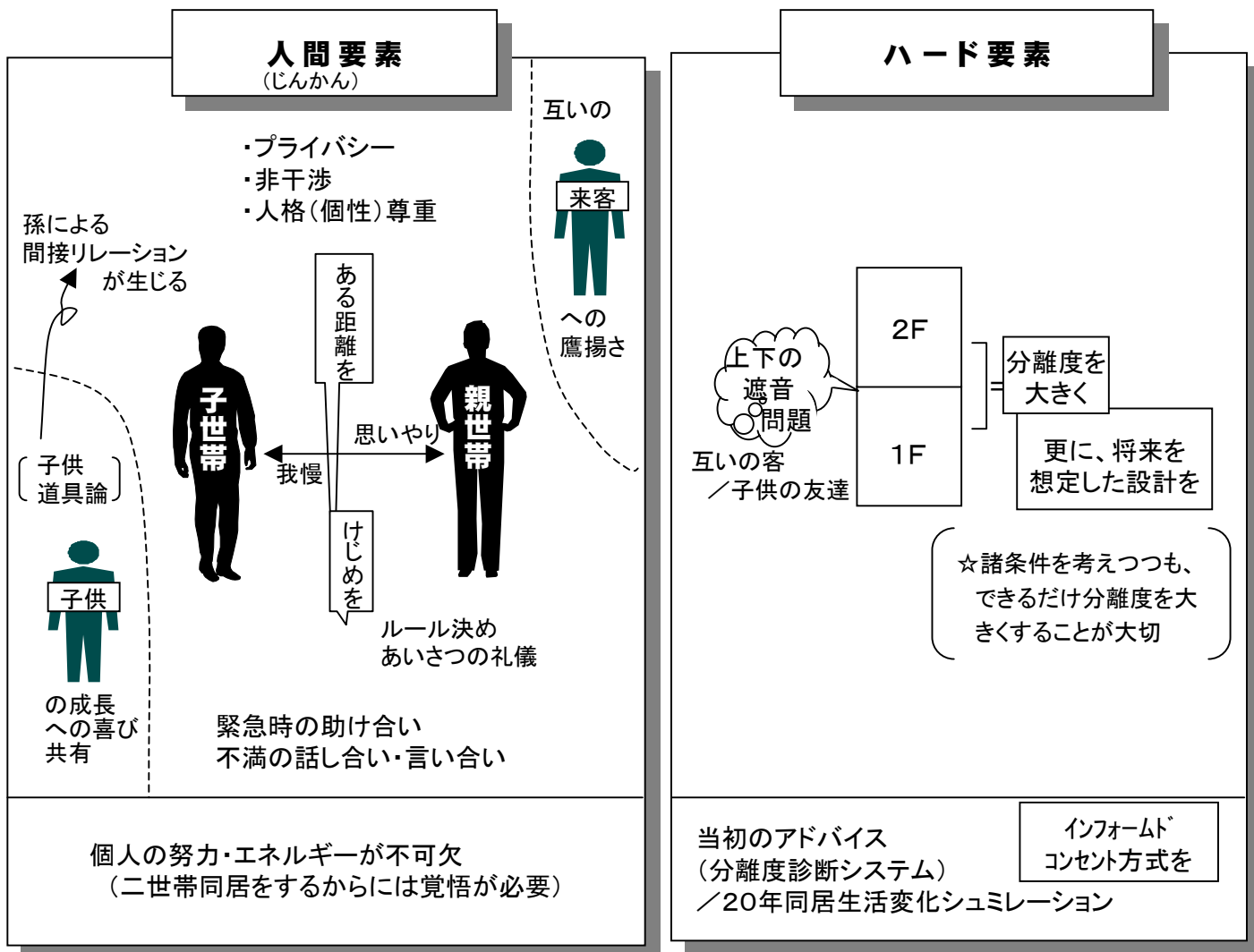
我慢も大切派(親)

- なるべくその場で解決をはかることがよいとされる。話し合いを設定する実子(息子、娘)の役割は重要。又、当事者同志のフランクな話し合いも大切。

3. 二世帯同居生活のコツ(先人の教え)

①人間(じんかん) ②ハード(建物) ③負担分担 ④時間要素 の
4つの視点からの二世帯同居生活をうまくやるコツ

「二世帯同居生活」のソリューション(改めて、20年間をふりかえってみてのコツとは)



時間要素

相続ルール

- ・子供間の話し合い
- ・土地、建物の整序

家族成長ルール

- ・子供大きく(部屋要)
- ↑ (スペースの譲り合い)
- ↓
- 親は死亡

高齢化ルール

健康介護への誠意・支え

生活パターンの違い 増大への覚悟

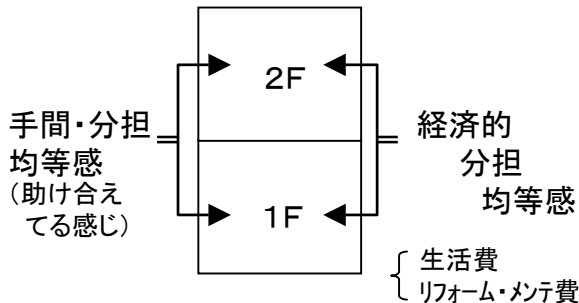
- e.g. 子供遅い
- ／友人来る
- e.g. 奥様仕事

生活対応リフォーム

「ロングライフ」のソフトメット

- ・分離度部分...
- ・水まわり...
- ・子供部屋...

負担要素



☆どちらかが損をしている気分はマズイ

「ルール」の決定／
「不満点」の徹底した話し合い

① 20年間マップの必要性

⇒ 予定調和的におこる“いいこと／よくないこと／不測のこと”を初年度に示すことが大切

[👁️ 相当な「営業支援」になる／旭＝ロング二世帯のプロイメージづくりにも貢献]

② 「二世帯の賢い住み方コンサルタント」(営業が兼務?!)が一定のフォーマット／チェックリストで20年間をシミュレーションしてやること大切

③ トラブルは当然と思うこと。同時に「たまたま近くにいる、スタイルの違う親子世帯同志」といった緊張感のある関係で何事も処理することが大切



第六章

二世帯同居生活への本音 (本当は／理想は)

1. 将来の生活

「できるだけこの家に長く住み続けたい」意向は極めて強い。
 「この土地・地域には愛着があり、離れたくない」も同様に強い。

- やはり親世帯の方が積極的にそう思っているが「できるだけこの家に長く住み続けたい」と9割の世帯がそう考えている。
- 「可能なら転居ということを考えてもよい」は積極的に「かなりそう思う」は子世帯で4%、親世帯では1%に過ぎない。ここまでくれば愛着もあるし、今さらということはあるらしい。
- しかし、「自分の子供との2世帯住宅として使っていきたい」と考える子世帯は「かなりそう思う13%」と積極的に思っていない。「少しそう思う」を入れて40%。
- 同様に「この家の将来のことは子供たちにまかせたい」も積極的に「かなりそう思う」は24%、「少しそう思う」を入れて49%と約半分。
- ただし子世帯では「メンテナンス・リフォームを実施して快適さ・便利さを確保したい」は少しそう思うを入れて78%の世帯が考えている。

	子世帯		親世帯	
	かなり そう思う	(+) 少 そう思う	かなり そう思う	(+) 少 そう思う
a. できるだけこの家に長く住み続けたい ----->	57	(86)	77	(90)
b. メンテナンス・リフォームを実施して快適さ・便利さを確保したい --->	28	(73)	21	(48)
c. この土地・地域には愛着があり、離れたくない ----->	46	(78)	72	(87)
d. この家を自分の余暇・自由時間本位に使っていきたい->	27	(61)	35	(52)
e. 可能なら転居ということを考えてもよい ----->	4	(29)	1	(9)
f. この家の将来のことは子供たちにまかせたい ----->	24	(49)	70	(88)
g. 自分の子供との二世帯住宅として使っていきたい --->	13	(40)	(-)	(-)

子世帯の属性別意向	同居継続者 の子世帯 かなり そう思う	年代			分離度			
		40代	50代	60代	完全	準	玄の み	玄・ 浴
		40代	50代	60代	完全	準	玄の み	玄・ 浴
a. できるだけこの家に長く住み続けたい ----->	55	49	63	55	49	62	45	55
b. メンテナンス・リフォームを実施して快適さ・便利さを確保したい --->	26	16	33	20	26	23	29	28
c. この土地・地域には愛着があり、離れたくない ----->	46	44	49	50	45	50	38	41
d. この家を自分の余暇・自由時間本位に使っていきたい->	24	13	29	35	20	23	17	31
e. 可能なら転居ということを考えてもよい ----->	4	6	4	0	4	2	0	3
f. この家の将来のことは子供たちにまかせたい ----->	23	17	26	25	14	25	42	16
g. 自分の子供との二世帯住宅として使っていきたい --->	13	13	14	10	12	17	13	9

2. 将来のリフォーム意向

今現在、しっかりした予定行動として大きなリフォームについて計画にのせている世帯はさほど多くはない。

- 二世帯間の分離(共用・専用)を変更する「玄関のリフォーム」を将来予定している世帯は3%、「予定はないが興味がある」世帯を加えても13%。
- 二世帯間の分離を変える「浴室のリフォーム」「キッチン」のリフォーム」もほぼ同様の「予定」は共に4%、「予定はないが興味がある」を加えても共に14%。
- 建替えについては「将来予定」3%、
- 賃貸については「将来予定」3%、「予定はないが興味あり」も3%。
- 売却については「将来予定」1%、「予定はないが興味あり」も4%。

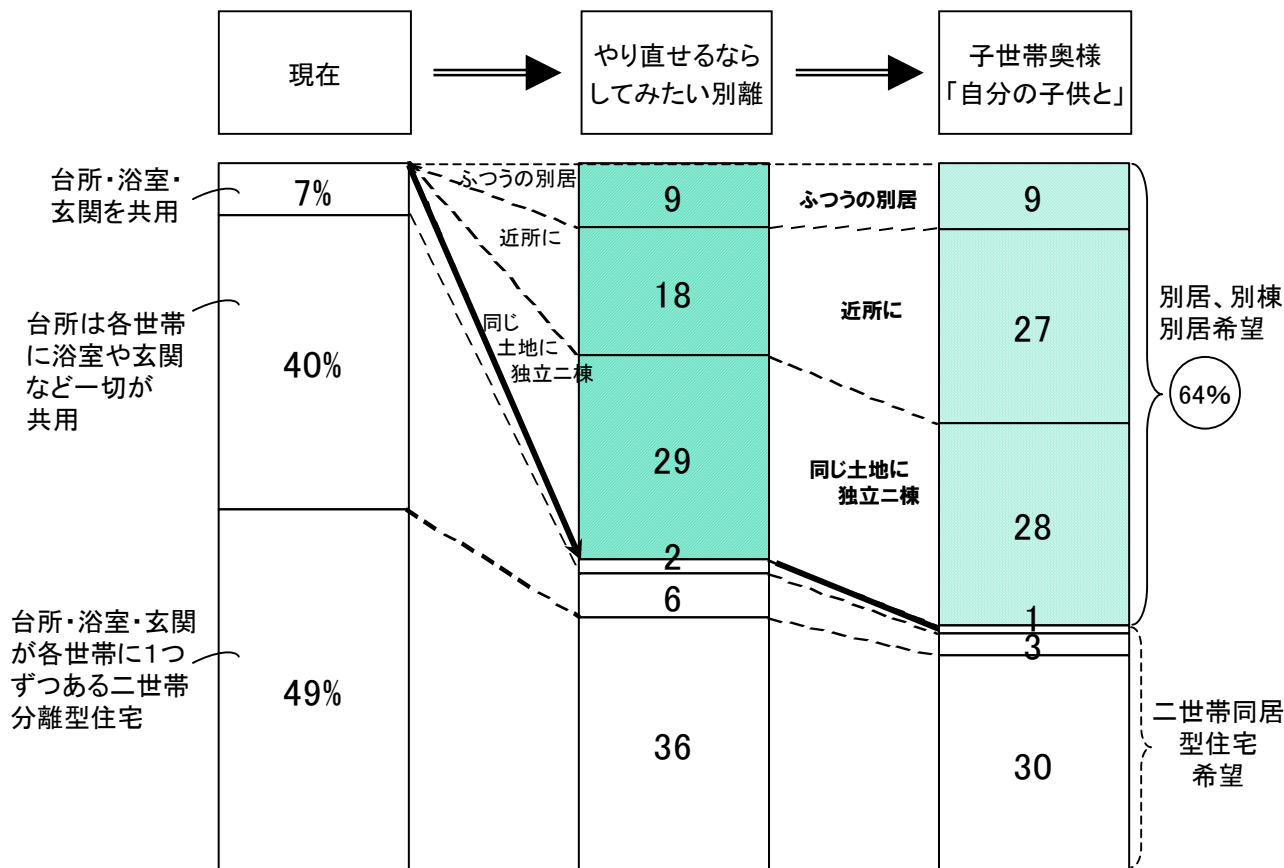
将来のリフォーム(Q27)

	将来予定 している	予定はないが ⊕興味がある	少し興味 ⊕がある
二世帯間の分離状態(共用・専用)を変更する 「玄関」のリフォームについては	3	(13)	(20)
二世帯間の分離状態(共用・専用)を変更する 「浴室」のリフォームについては	4	(14)	(22)
二世帯間の分離状態(共用・専用)を変更する 「キッチン」のリフォームについては	4	(14)	(23)
建替えについては	3	(11)	(18)
賃貸については	3	(6)	(12)
売却については	1	(5)	(10)

3. やり直せるならば「してみたい住い方」

実は、良くできたヘーベリアンの皆様もできれば「独立住宅でやり直したい」と半分の方が思っている。自分の子供が世帯を持っても、「ひとつの建物での同居」を望むヘーベリアンの子世帯は1/3(34%)。

- 20年をやって来た世帯ですが、「やり直せるならしてみたい別離」として、二世帯同居住宅は44%、独立住宅希望は半数以上となっている。
- 二世帯同居型住宅でも「台所・浴室・玄関が各世帯に1つずつある二世帯分離住宅」の意向が高くなっている。
- 独立住宅としては「同じ土地に独立二棟」が全体の約3割を占め高い。その他は「近所に18%」「ふつうの別居9%」となっている。
- 子世帯の子供との同居は「別居、別棟独立」が2/3を占め、独立の意向が高い。1/3は二世帯同居型住宅希望である。その中でも「台所・浴室・玄関が各世帯に1つずつある二世帯分離型住宅」が望まれている。



マンション生活への意向(Q31)

マンション (27)	一戸建 (63)	その他 (6)	不明 (4)
---------------	-------------	------------	-----------

(参)

同居したい子供は	
息子	23%
娘	34
二世帯イヤ	(38)

- 別居希望は多い。

20年間二世帯をしてきた人(ベテランヘーベリアン)の意見として“きわめて重いもの”がある。

- 100点満点のソリューションではないが「完全分離」方式はそれなりの役割を果たしてきたといえる。
- 土地さえあれば「同じ土地独立二棟」方式はきわめてよいソリューションといえそうだ。
- 完全分離 → 同の歩どまりは40%前後、ついでb、cが多い。
- 共用 → 同のe、fへの歩どまりは20%前後と少ない。完全分離希望が多い。

現同居継続 二世帯継続	現在分離者				現年代別			
	完全	準 (往来可)	玄 のみ	玄・浴 共用	~40代	50代	60代~	
a. 台所、浴室、玄関はいずれも共用の住宅 -----	7	8	6	4	10	4	9	10
b. 台所は各世帯に1つずつあるが、浴室や 玄関など一部が共用である住宅 -----	20	14	27	21	17	24	18	15
c. 台所、浴室、玄関が各世帯に1つずつある、 二世帯分離型住宅 -----	26	35	21	25	21	19	28	35
d. 同じ土地に親世帯と子世帯の独立した 二棟の住宅 -----	36	39	44	29	31	40	35	30
e. 簡単に行き来可能な近いところに住む (近居) -----	7	0	2	13	17	7	7	5
f. ふつうの別居(離れて住む) -----	3	0	0	4	3	6	1	5